通信機は スタンダード

STANDARD

TWIN BANDER

144MHz/430MHz FM TRANSCEIVER

C5700シリーズ

C5700/C5700D
C5710/C5710D
C5720/C5720D

取扱説明書

お買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お使いになるまえに、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。

この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

C5700D/5710D/5720Dをご使用になる場合は、第２級アマチュア無線技士以上の資格が必要です。

本機は、国内仕様です。国外ではご使用になれません。

はじめに
ご使用前の準備
使いかたの基本を知ろう
もっと自由にあつかうために
メモリー機能を使うには
スキャン機能を使うには
レピータを使うには
こんな使いかたもできます
別売り品を使って
ご参考に

日本マランツ株式会社

本書の読みかた

●本書の説明は、工場より出荷され、お客さまが初めて電源を入れたときの状態より説明を行っています。

●本書では次の記号を使っています。

注 …… 注意すること、守っていただきたいことを示します。

…… 覚えていると便利なこと、またはアドバイスを示します。

P …… 参照するページを示します。

開梱しましたら、梱包品の確認をしてください。

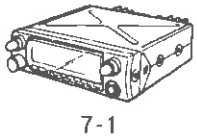
梱包品一覧表

1. 取扱説明書 …… 1
2. 保証書 …… 1
3. 営業所一覧 …… 1
4. ブロックダイアグラム …… 1
5. 愛用者カード …… 1
6. マイクロホン …… 1
   - 6-1 リモコンマイク：C5700/C5700Dに付属
   - 6-2 フルリモコンマイク：C5710/C5710D/C5720/C5720Dに付属

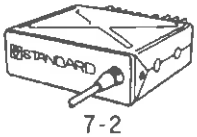
6-1

6-2

7. 無線機本体 …… 1
   - 7-1 C5700/C5700D/C5720/C5720Dにセパレートカバーは付属されていません。
   - 7-2 C5710/C5710Dにコントロールヘッドは付属されていません。



7-1



7-2

8. 電源コード（赤・黒）2.0m …… 1
9. Φ3.5プラグ（EXT.SPKR用）…… 1
10. 本体固定ブラケット …… 1
11. モービルブラケット止めビス …… 一式
    - ボルト（M4mm×8mm）…… 4
    - ボルト（M5mm×20mm）…… 4
    - ナット（M5mm）…… 4
    - ワッシャー（M5mm）…… 8
    - スプリングワッシャー（M5mm）…… 4
    - タッピングビス（M5mm×15mm）… 4
    - 六角スパナ …… 1
12. マイクハンガー …… 1
13. 予備ヒューズ …… 2
    - 13-1 5A：C5700/C5710/C5720に付属
    - 13-2 12A：C5700D/C5710D/C5720Dに付属
14. メモリーユニットCMU181 …… 1
    （本体に付属されています）

もくじ

はじめに ____ 5
ご使用上の注意 …… 6
ご使用前の準備 ____ 7
車に取り付けるには …… 8
無線機の取り付けかた …… 8
コントロールヘッドの取りはずしかた …… 9
メモリーユニットの交換のしかた …… 9
電源ケーブルを接続するには …… 10
アンテナを取り付けるには …… 11
固定局で使うには …… 12
無線機の設置方法 …… 12
アンテナを取り付けるには …… 12
使いかたの基本を知ろう ____ 13
電源を入れるには …… 14
音量を調整するには …… 15
スケルチを調整するには …… 16
バンド（周波数帯）を選択するには …… 17
受信するには（周波数を合わせるには） …… 18
送信するには …… 19
その他の基本的な使いかたについて …… 20
ディスプレーの照明を暗くするには(ディマー) …… 20
フルリモコンマイクのリモコン操作について …… 20
各部の名称と動作 …… 21
もっと自由にあつかうために ____ 29
周波数ステップを変えるには …… 30
周波数を 1 MHz ステップで変えるには：SET12 …… 31
周波数を直接入力するには：SET07 …… 32
(ダイレクト入力)
コール周波数（呼び出し周波数）を使うには …… 33
コール周波数を変えるには …… 34
コール周波数に各種設定を書き込むには …… 35
間違って操作するのを防ぐには …… 36
(キーロック)
キーロック中にメインダイヤルツマミを働かせるには …… 37
〈メインダイヤルの有効・無効〉：SET13
スケルチをオフにするには …… 38
(スケルチオフ)
スケルチを RF のレベルでコントロールするには …… 39
(RF スケルチ)の設定：SET17
送信出力を変えるには …… 40

もくじ

メモリー機能を使うには 41
メモリー機能について 42
メモリーするには 42
メモリーを呼び出すには 43
メモリーを消去するには 43
メモリーを変更するには 43
メモリーに優先順位をつけるには 44
（メモリープライオリティー）
メモリー周波数にトーンスケルチモードを書き込むには 44
メモリー周波数にトーンエンコードモードを書き込むには 45
メモリーのトーン周波数を書き換えるには 45
メモリー周波数にページングモードを書き込むには 46
メモリー周波数にコードスケルチモードを書き込むには 46
メモリー周波数にレピータモードを書き込むには 47
メモリー周波数にスキャン方法を書き込むには 47
メモリーされているレピータのシフト周波数を書き換えるには 48
メモリーを変更できないようにするには：SET16 48
（メモリープロテクト）
スキャン機能を使うには 49
スキャン機能について 50
スキャンする前の準備 51
1 MHz内でスキャンするには 52
（1 MHzスキャン）
バンドの全域をスキャンするには 52
（オールスキャン）
指定した範囲をスキャンするには 52
（プログラムスキャン）
メモリー周波数をスキャンするには 53
（メモリースキャン）
優先順位をつけられたメモリーをスキャンするには 53
（プライオリティースキャン）
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには 53
（ブロックメモリースキャン）
トーンスケルチ状態でスキャンするには 54
スキャンする速さを変えるには：SET01 54
スキャン方法を選択するには 54
（ポーズスキャン/ビジースキャン/ホールドスキャンの選択）：SET02, 03
ホールドスキャンの待ち時間を変更するには：SET04 54

レピータを使うには 55
レピータ運用について 56
オートレピータモード 57
手動でレピータモードを設定するには 57
送信周波数を受信周波数より高い方向にシフトするには 57
レピータ運用時に送信と受信の周波数を逆にするには（リバース） 57
レピータ運用のオフセット周波数を変えるには 58
レピータ運用のトーン周波数を変えるには 58
オートレピータモードを解除するには：SET14 58
こんな使いかたもできます 59
使わないバンド（周波数帯）を消すには（バンドオフ） 60
ディスプレーを同じバンド(周波数帯)にするには(V-V,U-U) 60
VFOの周波数を同時に変えるには（VFOリンク） 60
間違って送信しないためには（PTTロック）：SET15 60
送信の自動停止を設定するには：SET19 61
サブバンドの音声出力を小さくするには（サブバンドミュート） 61
音声のミュートレベルを変えるには 61
〈ミュートダウン音量 -6dB, -12dB, -18dB〉：SET18
本体のスピーカーからの音を止めるには：SET05 61
マイクのスピーカーからの音を止めるには：SET06 62
ビープ音の大きさを変えるには：SET00 62
設定を初めの状態に戻すには 62
（リセット）
すべての設定を初めの状態に戻すには（オールリセット）
メモリー以外の設定を初めの状態に戻すには（ノーマルリセット）
メモリーの内容を消すには（メモリーリセット）
セットモード機能の一覧 63

もくじ

別売り品を使って 65
トーンスケルチユニット(CTN5700)を使って …… 66
トーンエンコーダーを使うには …… 67
トーンスケルチを使うには …… 67
トーン信号の周波数を変えるには …… 67
タッチトーンユニット(CTD5700)を使って …… 68
自分の個別コードを設定するには …… 69
話したい相手のページング・コードスケルチのコードを決めるには …… 69
グループコードを設定するには …… 70
ページングを使うには …… 70
ページング信号が出るまでの時間を変えるには:SET09 …… 71
アラームの回数を変えるには:SET10 …… 71
コードスケルチを使うには …… 71
DTMFを使うには …… 72
DTMFコードをメモリーするには …… 72
DTMFコードを書き換えるには …… 73
メモリーしたDTMFコードを確認するには …… 74
メモリーしたDTMFコードを消去するには …… 74
メモリーしたDTMFコードを送出するには…… 75
DTMFコードの送出スピードを変更するには:SET08 …… 75
DTMFをシングルトーンに変えるには:SET11 …… 75
別売りケーブル(CAW570~CAW575)を使って …… 76
ご参考に 77
故障とお考えになる前に …… 78
オプション(別売り品)の紹介 …… 79
アフターサービスについて …… 79
定 格 …… 80
運用にあたって …… 81
申請書の書きかた …… 82
送信機系統図 …… 83
さくいん …… 84

はじめに

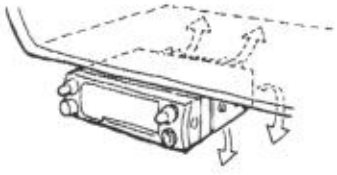
ご使用上の注意

設置場所

本機の設置場所として、次の点に注意してください。

1. 高温、多湿、ホコリの多い場所はさけてください。特に、日光が直接あたる場所はさけ、風通しのよい乾燥した場所に設置してください。

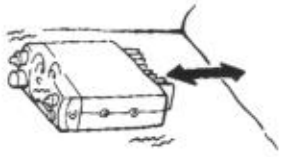
2. 放熱部の冷却効果を下げないため、背面および底面には充分スペースをとってください。長時間使用すると、無線機本体が温かくなりますが使用上支障はありません。



取り付け場所

1. 本機の取り付け場所は、ダッシュボードの下、コンソールボックスの横および計器類の下などをおすすめします。

2. 本機の背面が直接自動車のシートに触れないようにしてください。また、なるべく振動を受けない場所や状態でご使用ください。



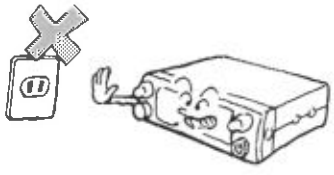
注意 次のような場所への取り付けはさけてください。

・ヒーターやクーラーの吹き出し口近く ・日光が直接あたる場所 ・振動の多い場所
・自動車本体の電子回路の近く ・安全運転に支障が出る場所

電源について

1. 本機は DC12V仕様車用です。大型車など 24V系のバッテリーには使用できません。

2. 絶対に AC(交流)100Vに接続しないでください。本機が故障します。



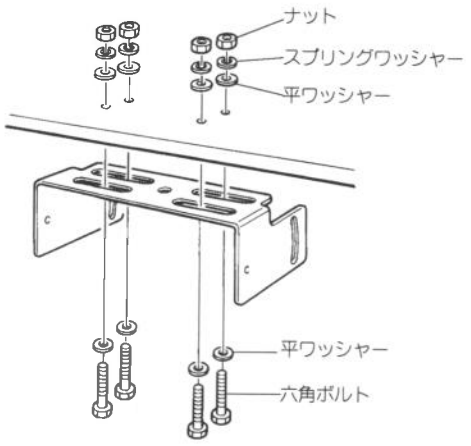
ご使用前の準備

車に取り付けるには …… 8
無線機の取り付けかた …… 8
コントロールヘッドの取りはずしかた …… 9
メモリーユニットの交換のしかた …… 9
電源ケーブルを接続するには …… 10
アンテナを取り付けるには …… 11
固定局で使うには …… 12
無線機の設置方法 …… 12
アンテナを取り付けるには …… 12

無線機の取り付けかた

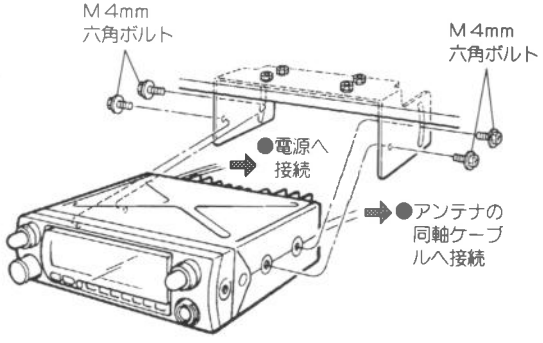
ブラケットを取り付けるには

ブラケットはしっかり固定される場所を選んで取り付けてください。
また、付属のボルト、ビスを使用し固定してください。



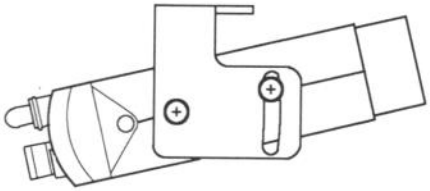
1 M 5 mmの六角ボルトを使用するときは、Φ 5.2~5.5 mmの穴を開ける
　M 5 mmのタッピングビスを使用するときは、Φ 4.0~4.3 mmの穴を開ける

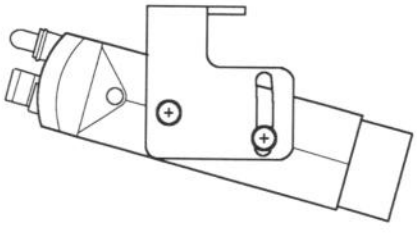
2 M 5 mmの六角ボルトを使用するときは、六角ボルトに平ワッシャーを通す
次に、内装側より平ワッシャー、スプリングワッシャー、ナットを通して固定する
　M 5 mmのタッピングビスを使用するときは、タッピングビスに平ワッシャーを通し、ネジ込む



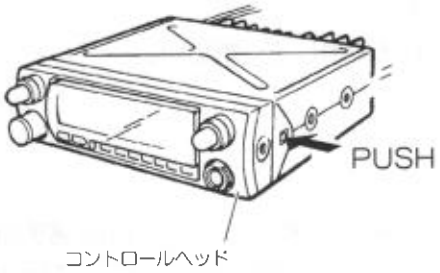
3 本機の後面パネルから出ている、同軸ケーブルをアンテナの同軸ケーブルへ接続する
電源ケーブルを電源へ接続する

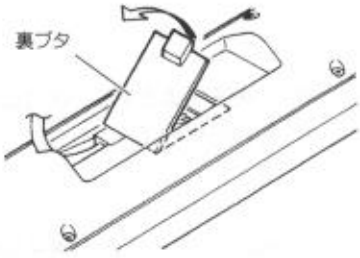
4 本機をブラケットに入れ、M 4 mmのボルトで固定する

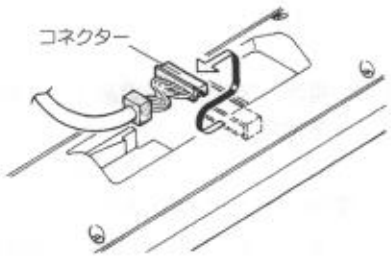




コントロールヘッドの取りはずしかた







1 本体側面のリリースボタンを押しながら手前に引く
コントロールヘッドがはずれる

2 コントロールヘッドの裏ブタを開く

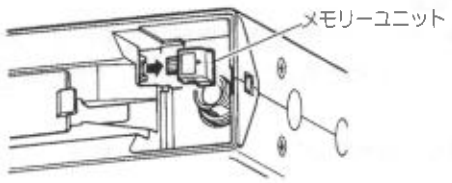
3 ケーブルのコネクターをはずす

● 逆の手順でセパレートケーブルのコネクターを極性を合わせて取り付け、フタを閉めます。

◆C5710/C5710Dにはコントロールヘッドは付属されていません。したがって別売りのコントロールヘッドCRC5700をお買い求めの際には、逆の手順で取り付けを行ってください。
◆本体側のセパレートケーブルのコネクターも同様の手順で取りはずすことができます。

メモリーユニットの交換のしかた

本体には、メモリーユニット(CMU181)が付属されています。
このメモリーユニットは他のメモリーユニット(CMU181/CMU182)に交換できます。
メモリーユニットは本体前面部の図の位置にあります。



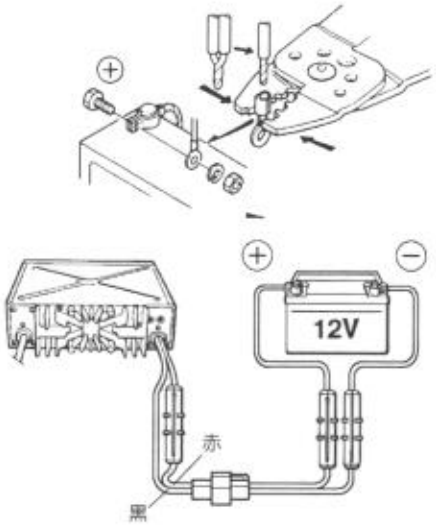
1 電源を切る
2 コントロールヘッドを取りはずす
3 本体に付属されているメモリーユニットを抜く
4 交換するメモリーユニットを差し込む

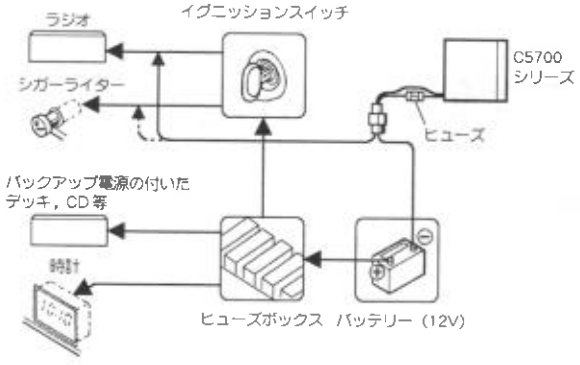
◆CMU181はVHF帯、UHF帯で各20 chメモリーできます。
◆CMU182はVHF帯、UHF帯で各100 chメモリーできます。

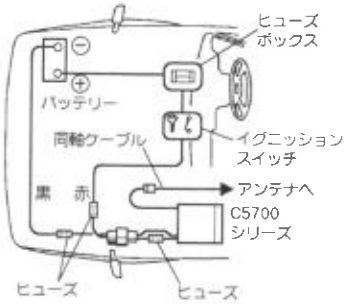
注 ◆電源が入っているときに、メモリーユニットの抜き差しは行わないでください。
◆オプションでお買い上げになったメモリーユニットを初めてお使いになる前に、必ずオールリセットを行ってください(▷62)。

電源ケーブルを接続するには

本機への電源供給は、自動車のバッテリーより行います。
自動車のバッテリーと本機の接続は、付属の電源コードを使用してください。







1 作業を行う前にバッテリーの⊖端子をはずす（ショートを防止するために必ず行ってください。）

2 バッテリー端子がゆるまないようにスパナ等でしっかり締め付ける

3 ⊕側の作業完了後、⊖側の端子をもと通りしっかり締め付ける

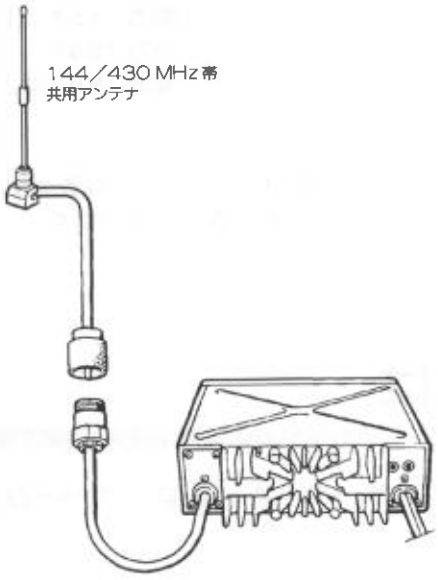
4 本機の電源コネクターと電源ケーブルのコネクターを接続する
　イグニッションスイッチと連動させる場合の、電源用赤コードは、車のイグニッションキーを通った後の12V⊕端子に接続する
黒コードは、12V⊖端子に接続する

注

◆本機を24V仕様車で使用する場合は、24Vを12Vに変換するDC-DCコンバータを必ずご使用ください。
◆車を長時間使用しないときは、電源コードをはずしてください。
◆C5700、C5710、C5720のヒューズは必ず5A定格のものを使用してください。
C5700D、C5710D、C5720Dのヒューズは必ず12A定格のものを使用してください。

アンテナを取り付けるには

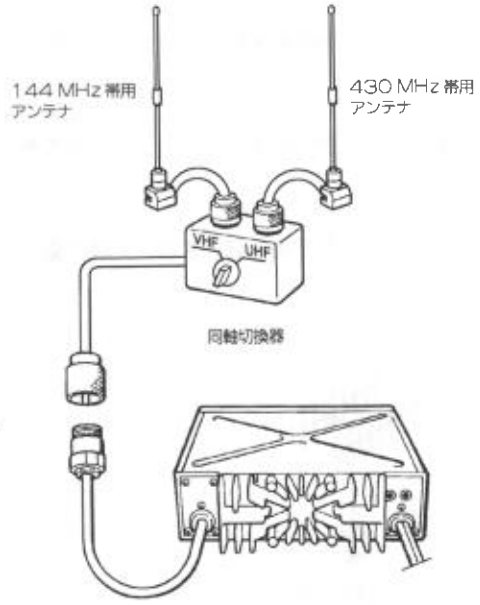
無線機の送信および受信の性能は、アンテナの種類や特性に大きく左右されます。運用目的や設置条件に合ったアンテナを選んでください。



共用アンテナを使用する場合

本機はデュープレクサーを内蔵しています。したがって、144/430 MHz帯共用アンテナを接続して使用できます。

1 本機の同軸ケーブルのコネクターとアンテナの同軸ケーブルコネクターを接続する



独立したアンテナを使用する場合

1 本機の同軸ケーブルに同軸切換器等を接続する

2 同軸切換器の144 MHz帯用同軸に144 MHz帯アンテナを接続する
次に、430 MHz帯用同軸に430 MHz帯アンテナを接続する

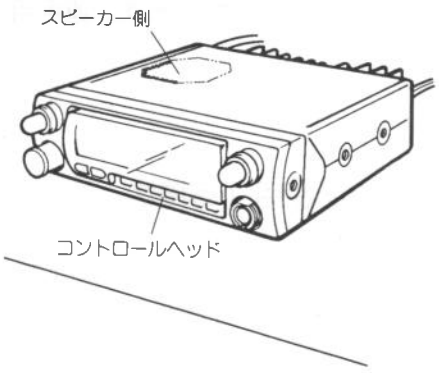
注

◆同軸ケーブルは、傷をつけたり、押しつぶしたりしないようにしてください。

◆アンテナのVSWRは1.5以下になるように調整してください。

◆アンテナ基台を取り付けるときは、アンテナ基台と車体のアースが完全にとれるようにしてください。

無線機の設置方法



本機を固定局として使用するときは、DC安定化電源を使用してください。
DC安定化電源は、以下のものを使用してください。

C5700, C5710, C5720 …… DC出力 13.8 V
出力電流 4.5 A以上
C5700D, C5710D, C5720D …… DC出力 13.8 V
出力電流 12.0 A以上

固定局として使うときは、内蔵スピーカーが上になるようにコントロールヘッドを上下逆に取り付けることができます。

アンテナを取り付けるには

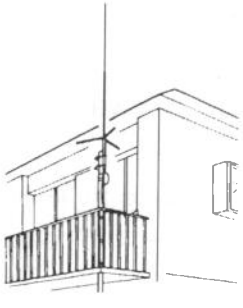
垂直型アンテナ等を使用する場合は、同軸ケーブルをアンテナの直下でループ(たるみ)を作り、アンテナ自体に同軸ケーブルの自重が加わらないようにしてください。

またコネクターの雨よけや、ケーブルの固定方法については、アンテナの取扱説明書をご参照ください。

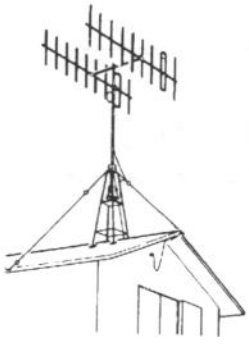
家屋の上に設置するときの一例を示しましたが、詳しくは販売店あるいは当社営業所、サービスセンターにご相談ください。

接続部の防水対策は、自己融着テープを引っぱりながら2重に巻き、その上を再度ビニールテープ等で巻いてください。

注 ◆アンテナが倒れたり、強風で飛ばされたときなど周囲の人家に危害を加えないよう、支線の張りかたなどに十分配慮してください。
◆同軸ケーブルは、できるだけ最短距離で配線してください。



GP（グランドプレーン）アンテナ
〈ベランダに取り付けたとき〉



（八木アンテナ）
〈屋根に取り付けたとき〉

使いかたの基本を知ろう

電源を入れるには …… 14
音量を調整するには …… 15
スケルチを調整するには …… 16
バンド（周波数帯）を選択するには …… 17
受信するには（周波数を合わせるには） …… 18
送信するには …… 19
その他の基本的な使いかたについて ……20
　ディスプレーの照明を暗くするには …… 20
　フルリモコンマイクのリモコン操作について ……20
各部の名称と動作 …… 21

電源を入れるには

コントロールヘッドでは

1 P.PWRを押す

2 ディスプレーに表示が点灯するのを確認する

3 電源を切るには、もう一度P.PWRを押す

フルリモコンマイクでは

1 PWRを押す

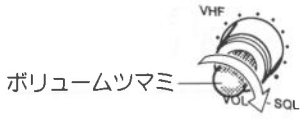
2 ディスプレーに表示が点灯するのを確認する

3 電源を切るには、もう一度PWRを押す

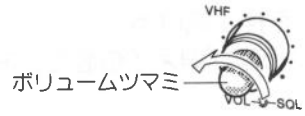
音量を調整するには

コントロールヘッドでは、

音量を大きくするには、
VOLツマミを時計方向に回す



音量を小さくするには、
VOLツマミを反時計方向に回す



◆フルリモコンマイクで、ディスプレーのV表示が点滅していないときは、A/VO-SQキーを押してください。

◆コントロールヘッドとフルリモコンマイクを一緒に使うときにフリモコンマイクで音量を調整するには、コントロールヘッドのVOLツマミを反時計方向に回しⓇの位置に合わせてください。コントロールヘッドの表示部にREMが表示されます(P 20)。このとき、スケルチの調整もフルリモコンマイクで行ってください(P 16)。

◆音量を調整するときはスケルチオフ状態で調整すると音量の変化がわかります(P 38)。

フルリモコンマイクでは、

1 A/VO-SQキーを押す

2 ディスプレーにV表示が点滅していることを確認する

音量を大きくするには
3/UPキーを押す
キーを押し続けると、音量も大きくなります。

音量を小さくするには
A/VO-SQキーを押す
ディスプレーにVが表示されていることを確認する
2/DOWNキーを押す
キーを押し続けると、音量も小さくなります。

注 ◆フルリモコンマイク(CMP843)が接続されていないときに、VOLツマミをⓇの位置にするとスケルチのコントロールもできなくなります。

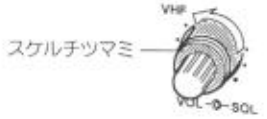
スケルチを調整するには

スケルチについて
信号を受けていないときは、「ザー」という音がでます。この音を消すのがスケルチです。

コントロールヘッドでは、

SQL ツマミをゆっくり時計方向に回す
「ザー」という音が消える位置で、ツマミをとめる

反時計方向に回すと、再び「ザー」という音が出ます



フルリモコンマイクでは、

1 A/VO-SQ キーを2回押す

2 ディスプレーのSQ表示が点滅していることを確認する

3 3/UP キーを押し続ける
「ザー」という音が消える位置で、キーを放す

4 2/DOWN キーを押し続けると再び「ザー」という音が出ます

◆フルリモコンマイクで、ディスプレーのSQ表示が点滅していないときは、A/VO-SQ キーを押してください。

◆スケルチのレベルを大きくすると、弱い信号を受けられないことがあります。

◆「ザー」という音が出ている状態をスケルチオフといいます。スケルチの操作により「ザー」という音が出ない状態をスケルチオンといいます。キーの操作でスケルチオフにすることができます (P 38)。

◆コントロールヘッドとフルリモコンマイクを一緒に使うときにフルリモコンマイクでスケルチを調整するには、コントロールヘッドの VOL ツマミを反時計方向に回し、Ⓡ位置に合わせてください。コントロールヘッドの表示部に REM が表示されます (P 20)。このとき、音量の調整もフルリモコンマイクで行なってください (P 15)。

バンド(周波数帯)を選択するには

VHFとUHFのバンドの切り換えを行うことができます。

コントロールヘッドでは

VHFバンドを選択するには

144キーを押す

ディスプレーにMAINが表示されていることを確認する

UHFバンドを選択するには

430キーを押す

ディスプレーにMAINが表示されていることを確認する

フルリモコンマイクでは

VHFバンドを選択するには

D/BANDキーを押す

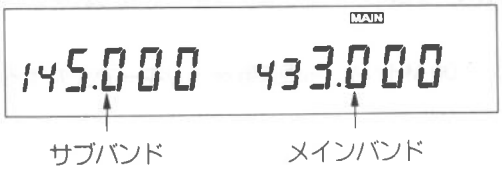
ディスプレーにMAINが表示されていることを確認する

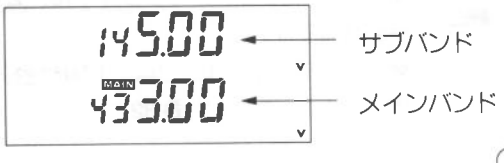
UHFバンドを選択するには

D/BANDキーを押す

ディスプレーにMAINが表示されていることを確認する

◆このとき選択したバンドをメインバンドと呼びます。
選択しなかったバンドをサブバンドと呼びます。



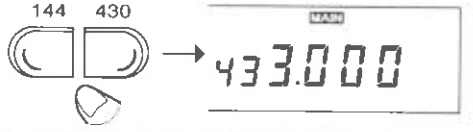


受信するには(周波数を合わせるには)

話したい相手に周波数を合わせ、相手が送信すると受信できます。

コントロールヘッドでは、

1 144 キーまたは 430 キーでバンドを選ぶ

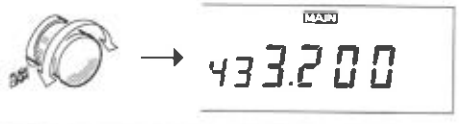


2 VFO 状態を確かめる

3 メインダイヤルを回し、話したい相手に周波数を合わせる

メインダイヤルを時計方向に回すと、周波数は高くなる

メインダイヤルを反時計方向に回すと、周波数は低くなる



4 話したい相手が送信するのを待つ

フルリモコンマイクでは、

1 D/BAND キーでバンドを選ぶ

2 VFO 状態を確かめる

3 2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押し、話したい相手に周波数を合わせる

2/DOWN キー押すと、周波数は低くなる

3/UP キー押すと、周波数は高くなる

4 話したい相手が送信するのを待つ

◆VFO 状態とは、メインダイヤル、2/DOWN / 3/UP キーまたはテンキーで周波数を変えることができる状態です。

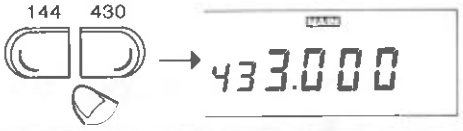
◆フルリモコンマイクでは、1 MHz 台および 100 MHz 台から周波数をテンキーで入力することができます(ダイレクト入力 P 32)。

送信するには

周波数を合わせた相手と、送信することで話しができます。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ



2 VFO状態を確かめる

3 メインダイヤルを回し、話したい相手に周波数を合わせる

メインダイヤルを時計方向に回すと、周波数は高くなる

メインダイヤルを反時計方向に回すと、周波数は低くなる

4 PTTを押しながら、マイクに向かって話す

注

◆送信する前には、送信しようとする周波数で他の人が送信していないことを確かめてください。

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

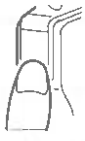
2 VFO状態を確かめる

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、話したい相手に周波数を合わせる

2/DOWNキーを押すと、周波数は低くなる

3/UPキーを押すと、周波数は高くなる

4 PTTを押しながら、マイクに向かって話す



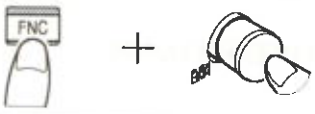
◆フルリモコンマイクでは、1 MHz台および100 MHz台から周波数をテンキーで入力することができます(ダイレクト入力 P 32)。

その他の基本的な使いかたについて

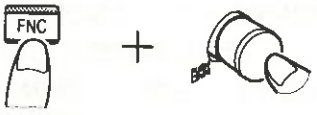
ディスプレーの照明を暗くするには（ディマー）

コントロールヘッドでは、

1 FNCキーを押しながら、メインダイヤルを押す



2 もとの状態に戻すには、FNCキーを押しながら、メインダイヤルを押す



フルリモコンマイクでは、

1 0/FUNCキーを押しながら、V-V,U-Uキーを押す

2 もとの状態に戻すには0/FUNCキーを押しながら、V-V,U-Uキーを押す

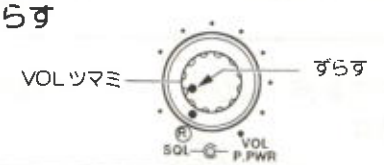
コントロールヘッドとフルリモコンマイクを一緒に使うとき、音量とスケルチをフルリモコンマイクで調整できます。

フルリモコンマイクのリモコン操作について

1 コントロールヘッドのVOLツマミをⓇの位置に合わせる

2 コントロールヘッドの表示部にREMが表示されるのを確認する

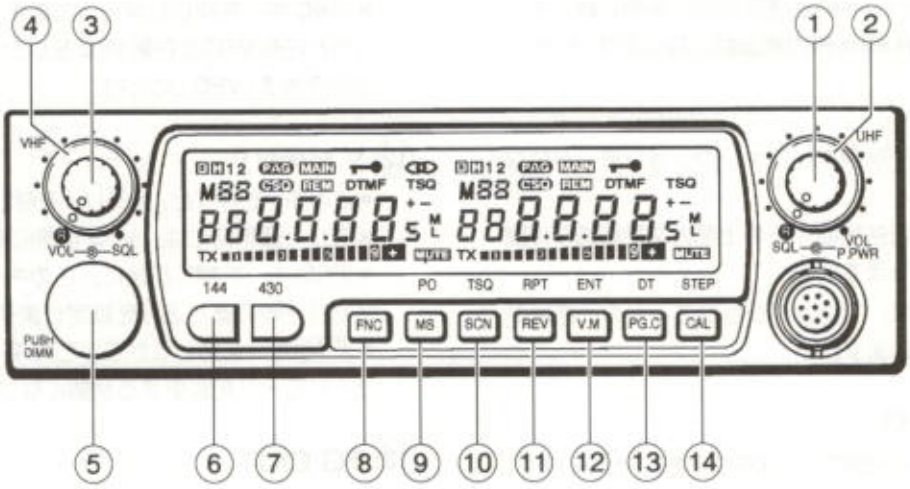
3 この動作を解除するにはコントロールヘッドのVOLツマミをⓇの位置よりずらす



4 コントロールヘッドの表示部のREMが消えることを確認する

各部の名称と動作

コントロールヘッドの各部の名称と主な動作は次のようになります。



①VOL /P.PWR（430 MHz帯用）

- このツマミを押すと電源が入ります。
- このツマミを回し430 MHz帯の音量を調整します。
- フルリモコンマイクを接続しているとき、Ⓡの位置に合わせるとフルリモコンマイクで430 MHz帯の音量とスケルチの調整ができます。

②SQL （430 MHz帯用）

- このツマミを回し430 MHz帯のスケルチを調整します。
- 時計方向(↷)に回しきった位置に合わせるとRFスケルチ動作になります。

③VOL（144 MHz帯用）

- このツマミを回し144 MHz帯の音量を調整します。
- フルリモコンマイクを接続しているとき、Ⓡの位置に合わせるとフルリモコンマイクで144 MHz帯の音量とスケルチの調整ができます。

④SQL（144 MHz帯用）

- このツマミを回し144 MHz帯のスケルチを調整します。
- 時計方向(↷)に回しきった位置に合わせるとRFスケルチ動作になります。

⑤メインダイヤルツマミ/ DIMM

- このツマミを回すと、周波数を変更することができます。
- 各種の設定を行うときに、設定を変更することができます。
- FNCキーを押しながらメインダイヤルを押すと、ディスプレーの照明が暗くなります(ディマー)。

⑥144

- このキーを押すと、144 MHz帯がメインバンドになります。

  このときディスプレーの144 MHz帯側にMAINが表示されます。
- FNCキーを押しながらこのキーを押すと、144 MHz帯側がOFFになります。
- メインバンドのときこのキーを押し続けていると、430 MHz帯の周波数になります(U-U)。

⑦ 430

●このキーを押すと、430 MHz帯がメインバンドになります。

このときディスプレーの 430 MHz 帯側に MAIN が表示されます。

● FNC キーを押しながらこのキーを押すと、430 MHz帯側が OFF になります。

●メインバンドのときこのキーを押し続けていると、144 MHz 帯の周波数になります (V-V)。

⑧ FNC

●このキーを押すとファンクションモードになります。

このとき各機能キーの上部の文字が約 3 秒間赤く点灯します。

本書では、ファンクションモードのときは F で表しています。

⑨ MS/PO

●このキーを押すと、メモリーをスキャンします。

●このキーを押し続けると、メモリーのスキャン方法を変更する状態になります。

● FNC キーを押した後に、このキーを押すと送信出力を変えることができます。

● FNC キーを押しながら、このキーを押すとサブバンドの音声をミュートすることができます。

⑩ SCN/TSQ

●このキーを押すと、1 MHz スキャンまたは、オールスキャンをします。

● FNC キーを押した後に、このキーを押すとトーンエンコードモードになります。

●トーンエンコードモードで FNC キーを押した後にこのキーを押すと、トーンスケルチモードになります。

● FNC キーを押した後に、このキーを押し続けるとトーン周波数を変更する状態になります。

● FNC キーを押しながら、このキーを押すとプログラムスキャンができます。

● 1 MHz またはオールスキャン中に FNC キーを押しながら、このキーを押し続けると 1MHz スキャン / オールスキャンの切り換えができます。

⑪ REV/RPT

●このキーを押すと、レピータ運用時に送・受信の周波数をリバースできます。

● FNC キーを押した後に、このキーを押すとレピータ運用になります。

● FNC キーを押しながら、このキーを押すとシフト方向が設定できます。

● FNC キーを押しながら、このキーを押し続けると左側 VFO と右側 VFO をリンクすることができます (VFO リンク)。

⑫ V.M/ENT

●このキーを押すと、メモリーを呼び出せます。メモリー運用時には、VFO 状態に戻ります。

● FNC キーを押した後に、このキーを押すとメモリー等の書き込みを設定します。

● FNC キーを押しながら、このキーを押すとセットモードを変更する状態になります。

⑬ PG.C/DT

●このキーを押すと、ページングモードになります。

●ページングモードで、このキーを押すとコードスケルチモードになります。

●このキーを押し続けると、ページングコードを変更する状態になります。

● FNC キーを押した後に、このキーを押すと DTMF モードになります。

● FNC キーを押した後に、このキーを押し続けると DTMF コードを変更する状態になります。

● FNC キーを押しながら、このキーを押すとキーロック状態になります。

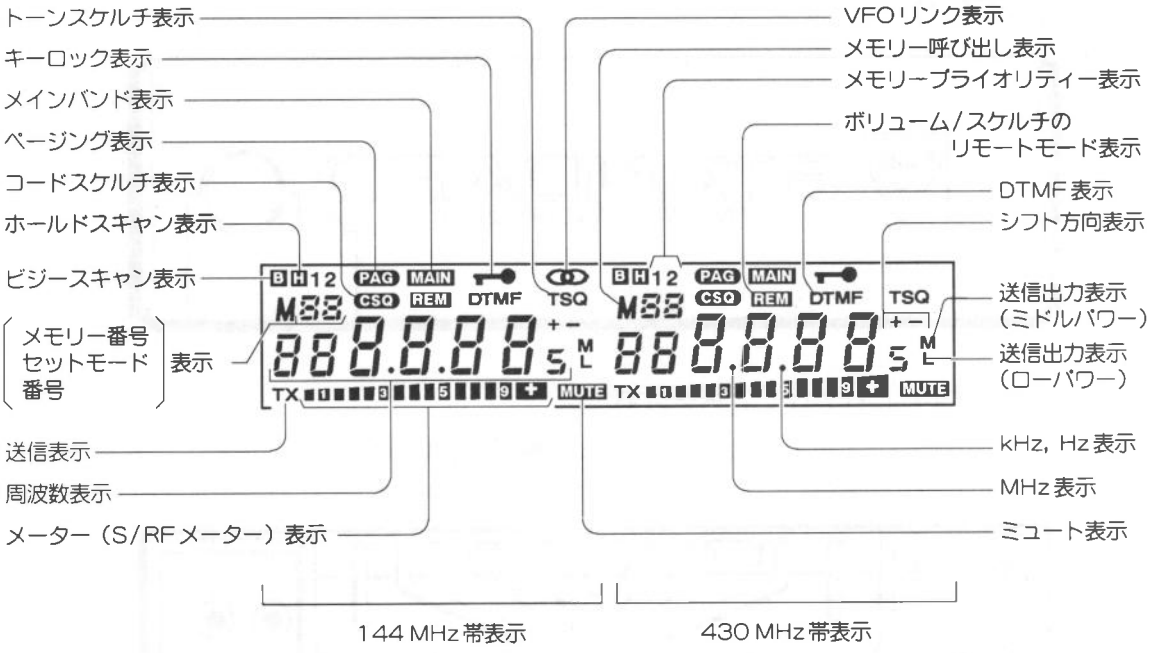
⑭ CAL/STEP

●このキーを押すと、コール周波数になります。コール周波数では、VFO 状態に戻ります。

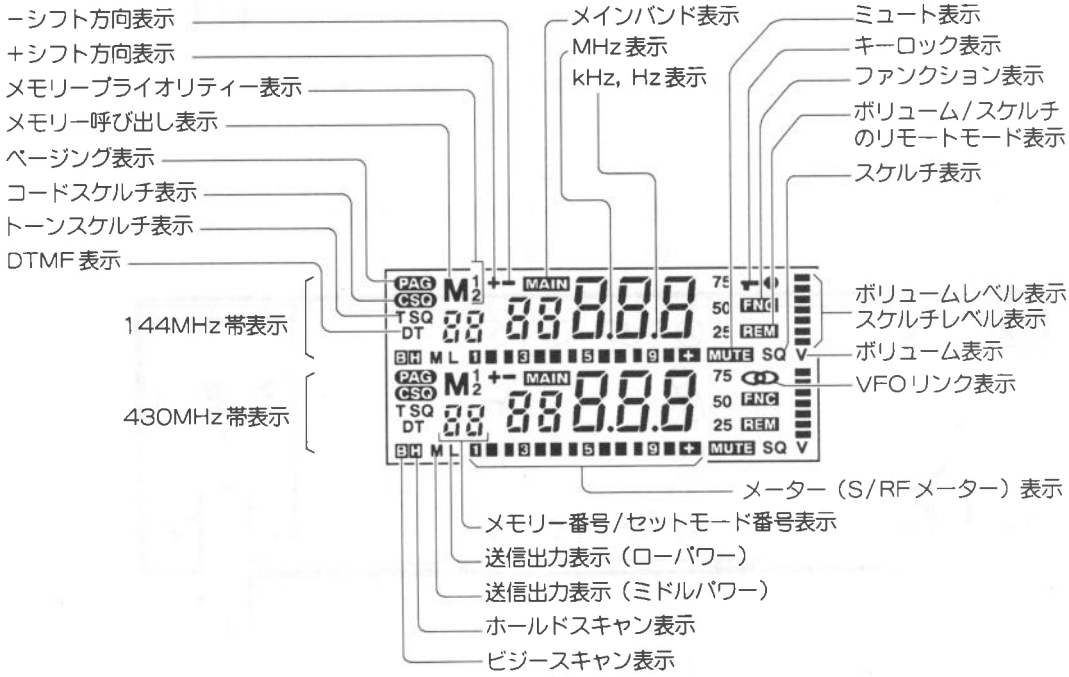
● FNC キーを押した後に、このキーを押すとステップ周波数を変更する状態になります。

● FNC キーを押しながら、このキーを押すとシフト周波数を変更する状態になります。

コントロールヘッド表示部（ディスプレー）



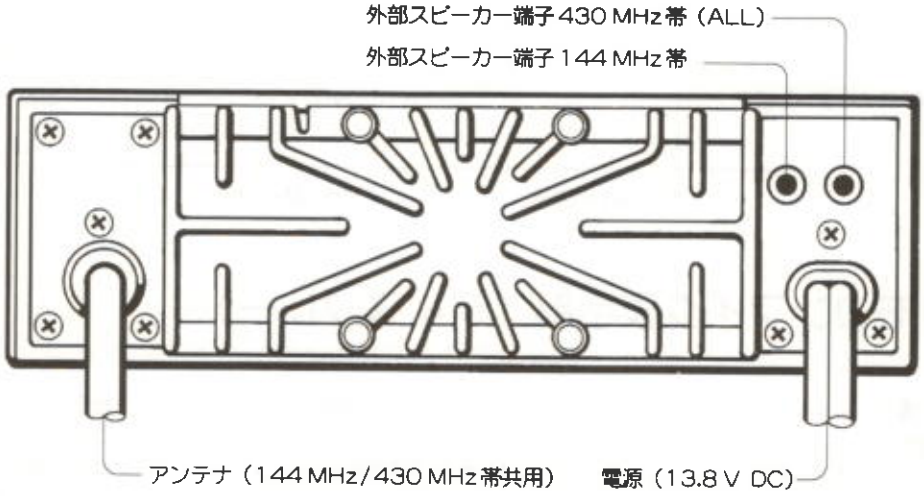
フルリモコンマイク表示部（ディスプレー）



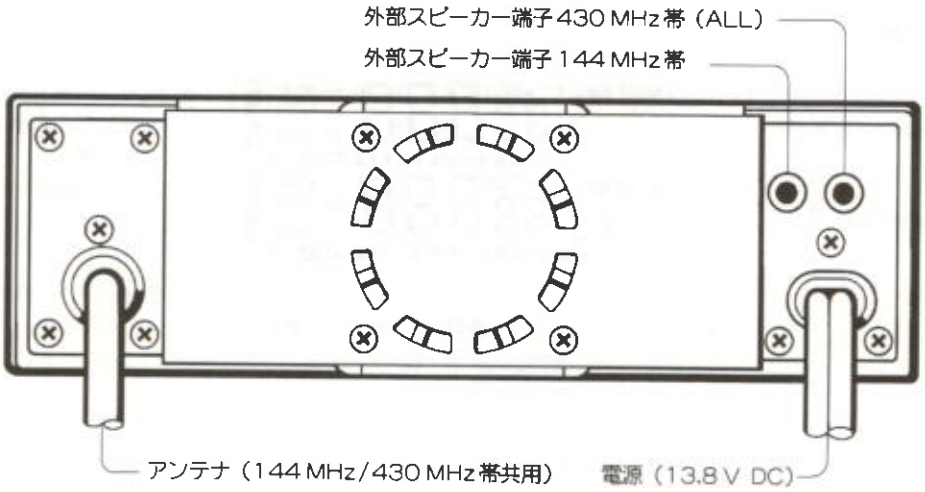
本体前面/後面部

(C5710)

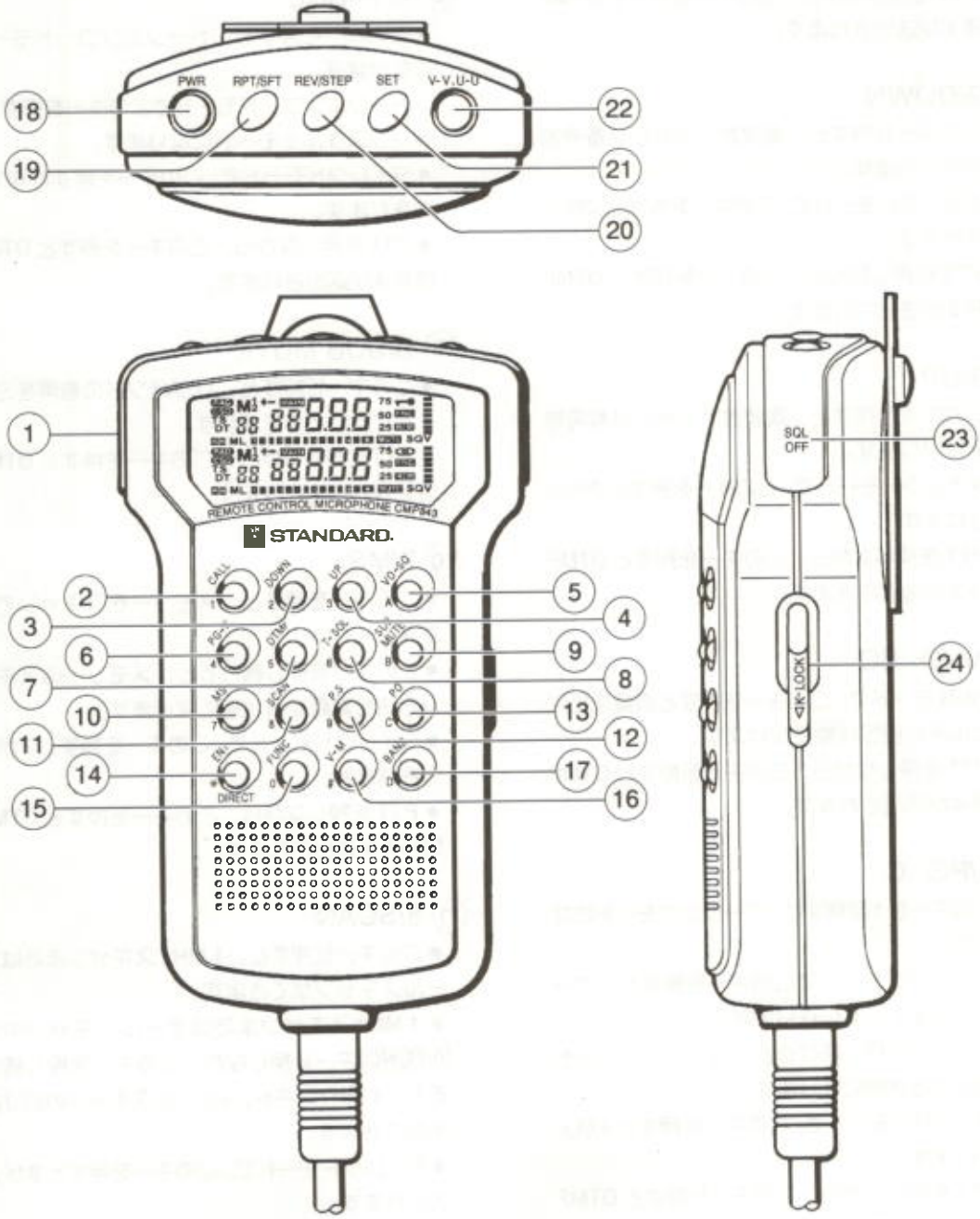
(C5700, C5710, C5720)



(C5700D, C5710D, C5720D)



フルリモコンマイクの各部の名称と主な動作は次のようになります。



① PTT
●このスイッチを押すとメインバンドで送信します。

② 1/CALL
●このキーを押すと、コール(呼び出し)周波数になります。
●ダイレクトモードで、このキーを押すと1が入力されます。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号1が送出されます。

③ 2/DOWN
●このキーを押すと、周波数、アドレス番号等がダウンします。
●ダイレクトモードで、このキーを押すと2が入力されます。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号2が送出されます。

④ 3/UP
●このキーを押すと、周波数、アドレス番号等がアップします。
●ダイレクトモードで、このキーを押すと3が入力されます。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号3が送出されます。

⑤ A/VO - SQ
● REMモードで、このキーを押すと音量またはスケルチの設定状態になります。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号Aが送出されます。

⑥ 4/PG - C
●このキーを1回押すと、ページングモードになります。
ページングモードでこのキーを押すと、コードスケルチモードになります。
●このキーを押し続けると、ページングコードを設定する状態になります。
●ダイレクトモードで、このキーを押すと4が入力されます。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号4が送出されます。

⑦ 5/DTMF
●このキーを押すと、DTMFモードになります。
●このキーを押し続けると、DTMFコードを設定する状態になります。
●ダイレクトモードで、このキーを押すと5が入力されます。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号5が送出されます。

⑧ 6/T - SQL
●このキーを押すと、トーンエンコードモードになります。
トーンエンコードモードでこのキーを押すと、トーンスケルチモードになります。
●ダイレクトモードで、このキーを押すと6が入力されます。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号6が送出されます。

⑨ B/SUB MUTE
●このキーを押すと、サブバンドの音声をミュートすることができます。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号Bが送出されます。

⑩ 7/MS
●このキーを押すと、メモリーをスキャンできます。
●このキーを押し続けると、メモリーのスキャン方法を変更する状態になります。
●ダイレクトモードで、このキーを押すと7が入力されます。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号7が送出されます。

⑪ 8/SCAN
●このキーを押すと、1 MHzスキャンまたはオールスキャンができます。
● 1 MHzスキャンまたはオールスキャン中に[0/FUNC]キーを押しながらこのキーを押し続けると、1 MHzスキャン/オールスキャンの切り換えができます。
●ダイレクトモードで、このキーを押すと8が入力されます。
● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号8が送出されます。

⑫ 9/P.S

●このキーを押すと、プログラムスキャンができます。

●ダイレクトモードで、このキーを押すと9が入力されます。

● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号9が送出されます。

⑬ C/PO

●このキーを押すと、送信出力を変更できます。

● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号Cが送出されます。

⑭ ＊ ENT•DIRECT

●このキーを押すと、ダイレクトモードになり、直接数字入力ができます。
また、入力した数字の決定を行います。

● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号＊が送出されます。

⑮ 0/FUNC

●このキーを押すと、ファンクションモードになります。
本書では、ファンクションモードのときは[F]で表しています。

●ダイレクトモードで、このキーを押すと0が入力されます。

● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号0が送出されます。

⑯ #/V - M

●このキーを押すと、VFO状態とメモリー状態の切り換えができます。

● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号#が送出されます。

⑰ D/BAND

●このキーを押すと、メインバンドの切り換えができます。

● [0/FUNC]キーを押しながら、このキーを押すとサブバンドがOFFになります。

● PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号Dが送出されます。

⑱ PWR

●このキーを押すと、電源が入ります。

⑲ RPT/SHIFT

●このキーを押すと、レピータモードになります。

●このキーを押し続けると、レピータのシフト周波数を変更できる状態になります。

● [0/FUNC]キーを押した後に、このキーを押すとシフト方向の変更ができます。

● [0/FUNC]キーを押しながら、このキーを押すと144 MHz帯と430 MHz帯をリンクすることができます。

⑳ REV /STEP

●このキーを押すと、レピータ運用時に送•受信周波数をリバースできます。

● [0/FUNC]キーを押した後にこのキーを押すと、ステップ周波数を変更する状態になります。

㉑ SET

●このキーを押すと、セットモードを変更する状態になります。

㉒ V-V,U-U

●このキーを押すと、ディスプレーをすべて144 MHz帯または430 MHz帯にできます。

㉓ SQL - OFF

●このキーを押すと、スケルチを解除できます。

㉔ K - LOCK

●このキーを下にさげると、フルリモコンマイクでのキーの操作ができなくなります。

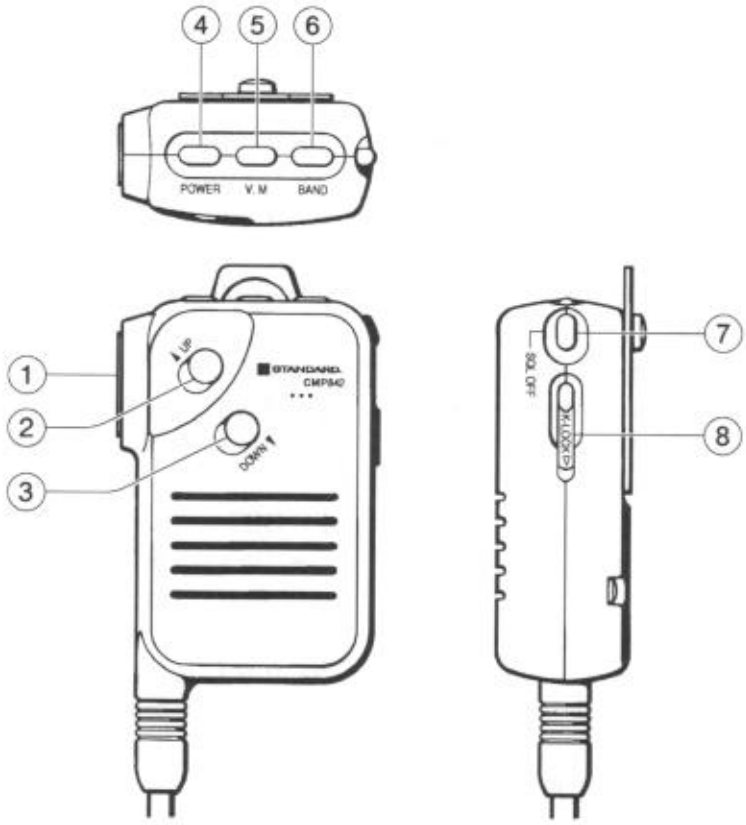
注

◆DTMF信号を送出する為には、別売り品のCTD5700が必要です。

◆CTD5700が実装されていないときは、ページング•コードスケルチ•DTMFの運用はできません。

◆トーンスケルチ運用をする為には、別売り品のCTN5700が必要です。

リモコンマイクの各部の名称と動作は次のようになります。



① PTT
- このスイッチを押すとメインバンドで送信します。

② ▲ UP
- このキーを押すと、周波数をアップします。

③ DOWN ▼
- このキーを押すと、周波数をダウンします。

④ POWER
- このキーを押すと、電源が入ります。

⑤ V.M
- このキーを押すと、VFO状態とメモリー状態の切り換えができます。

⑥ BAND
- このキーを押すと、メインバンドの切り換えができます。

⑦ SQL OFF
- このキーを押すと、スケルチを解除できます。

⑧ K-LOCK
- このキーを下にさげると、リモコンマイクでのキーの操作ができなくなります。

もっと自由にあつかうために

周波数ステップを変えるには …… 30
周波数を1 MHzステップで変えるには：SET12 …… 31
周波数を直接入力するには：SET07 …… 32
(ダイレクト入力)
コール周波数（呼び出し周波数）を使うには …… 33
コール周波数を変えるには …… 34
コール周波数に各種設定を書き込むには …… 35
間違って操作するのを防ぐには …… 36
(キーロック)
キーロック中にメインダイヤルツマミを働かせるには …… 37
〈メインダイヤルの有効・無効〉：SET13
スケルチをコントロールするには
スケルチをオフにするには …… 38
(スケルチオフ)
スケルチをRFのレベルでコントロールするには …… 39
(RFスケルチ)の設定：SET17
送信出力を変えるには …… 40

周波数ステップを変えるには

最初の設定では、コントロールヘッドのメインダイヤルツマミを回すと周波数は20 kHzのステップで変わります。また、マイクの[2/DOWN]または[3/UP]キーを押すと周波数は20 kHzのステップで変わります。

この周波数のステップを変えることができます。

コントロールヘッドでは、

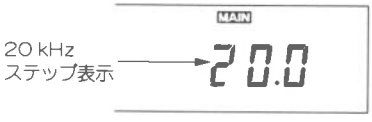
1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

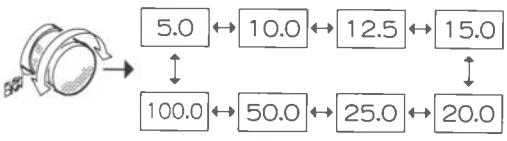
3 [FNC]キーを押す

4 [CAL /STEP]キーを押す

5 ディスプレーにステップ周波数が表示されることを確認する



6 メインダイヤルを回し設定するステップ周波数にする



7 VFO状態に戻すには、[FNC]キーを押し、[CAL /STEP]キーを押す F

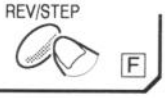
フルリモコンマイクでは、

1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ

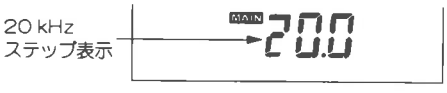
2 VFO状態を確かめる

3 [0/FUNC]キーを押す

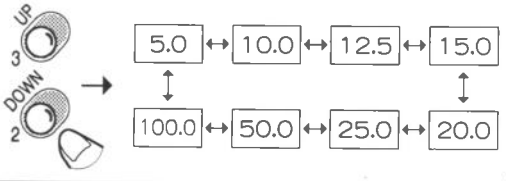
4 [REV/STEP]キーを押す



5 ディスプレーにステップ周波数が表示されることを確認する



6 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、設定するステップ周波数にする



7 VFO状態に戻すには、[0/FUNC]キーを押し、[REV/STEP]キーを押す F

周波数を 1 MHz ステップで変えるには

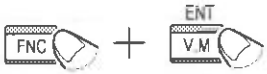
周波数のステップを 1 MHz で変えることができます。

コントロールヘッドでは、

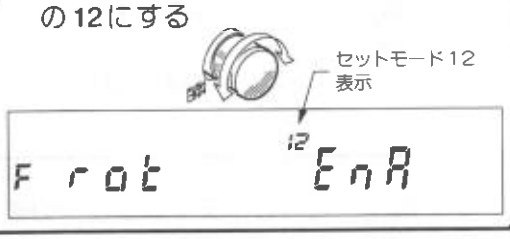
FNC キーを押し、メインダイヤルを回す

この機能は以下の手順で解除できます。

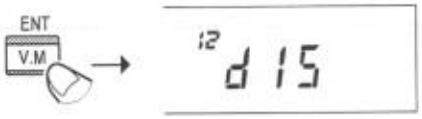
1 FNC キーを押しながら、V.M/ENT キーを押す



2 メインダイヤルを回し、セットモードの 12 にする



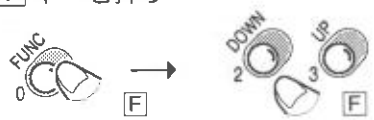
3 V.M/ENT キーを押し、ディスプレーの表示を EnA から diS にする



4 FNC キーを押しながら、V.M/ENT キーを押し、もとの表示に戻す

フルリモコンマイクでは、

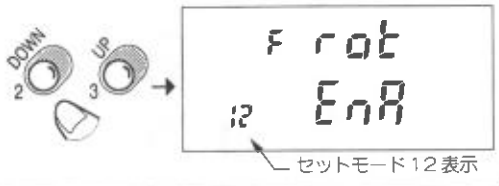
0/FUNC キーを押し、2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押す



この機能は以下の手順で解除できます。

1 SET キーを押す

2 2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押し、セットモードの 12 にする



3 #/V-M キーを押し、ディスプレーの表示を EnA から dIS にする

4 SET キーを押し、もとの表示に戻す

周波数を直接入力するには(ダイレクト入力)

フルリモコンマイクでは、周波数を直接入力することができます。この操作をダイレクト入力と呼びます。

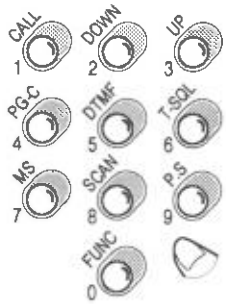
1 MHz台から入力するには

1 D/BAND キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 ✳/ENT•DIRECT キーを押す

4 入力する数字のキーを押す



◆「100 MHzからの入力」を解除するには、手順の5でディスプレーの表示をEnAからdISにします。

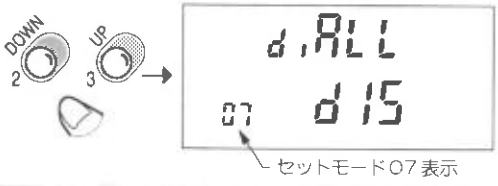
100 MHzから入力するには

1 D/BAND キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 SET キーを押す

4 2/DOWN キーまたは3/UP キーを押し、セットモードの07にする



5 #/V-M キーを押し、ディスプレーの表示をdISからEnAにする

6 SET キーを押す

7 VFO状態に戻ったことを確かめる

8 ✳/ENT•DIRECT キーを押す

9 入力する数字のキーを押す

コール周波数(呼び出し周波数)を使うには

コール周波数は最初の設定(工場出荷時)は、144 MHz帯では145.00 MHz、430 MHz帯では433.00 MHzです。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

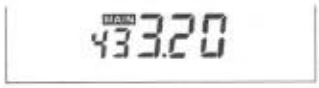
3 CAL/STEPキーを押す

4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確認する

5 VFO状態に戻すには、CAL/STEPキーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ



2 VFO状態を確かめる

3 1/CALLキーを押す

4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確認する

5 VFO状態に戻すには、1/CALLキーを押す

◆コール周波数になっているときに、メインダイヤルを回すか、マイクのUPまたはDOWNキーを押すと、コール周波数からUPまたはDOWNします。

コール周波数を変えるには

コール周波数を違う周波数に変更できます。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 CAL/STEPキーを押す

4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確かめる

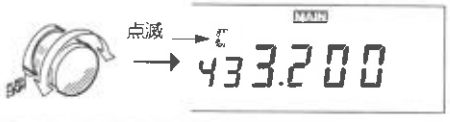
5 FNCキーを押す

F

6 V.M/ENTキーを押す

F

7 メインダイヤルを回し、変更する周波数にする（Cの表示が点滅する）



8 FNCキーを押す

F

9 V.M/ENTキーを押すと、Cの表示が点灯することを確認する

F

10 CAL/STEPキーを押す

11 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 1/CALLキーを押す

4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確認する

5 ＊/ENT•DIRECTキーを押す

6 テンキーを押し、変更する周波数をダイレクト入力する（最終桁を入力すると、書き換えは自動的に終了します。）

7 1/CALLキーを押す

8 VFO状態に戻ったことを確かめる

コール周波数に各種設定を書き込むには

コール周波数に各種の設定を書き込むことができます。設定できるのは、レピータ、ページング、コードスケルチ、トーンスケルチです。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 CAL/STEPキーを押す

4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確かめる

5 各種の設定を行うキーを押す

6 CAL/STEPキーを押す

7 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 1/CALLキーを押す

4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確認する

5 各種の設定を行うキーを押す

6 1/CALLキーを押す

7 VFO状態に戻ったことを確かめる

間違って操作するのを防ぐには(キーロック)

キー操作をできないようにすることができます。これはキーを間違って押し、動作が変わってしまうのを防ぐためです。この操作をキーロックと呼びます。

コントロールヘッドでは、

1 キーロックしたいバンドを[144]キーまたは[430]キーで選ぶ

2 [FNC]キーを押しながら、[PG.C/DT]キーを押す

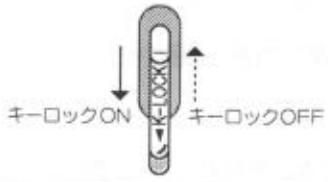
3 ディスプレーにキーマークが表示されることを確認する

4 この操作を解除するには、[FNC]キーを押しながら、[PG.C/DT]キーを押す

◆キーロックはコントロールヘッドの各バンドおよび、フルリモコンマイク,リモコンマイクでそれぞれ独立して設定できます。

フルリモコンマイクでは、

1 キーロックするには、[K-LOCK]スイッチをONにする

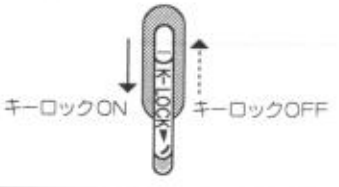


2 ディスプレーにキーマークが表示されることを確認する

3 キーロックを解除するには、[K-LOCK]スイッチをOFFにする

リモコンマイクでは

1 キーロックするには、[K-LOCK]スイッチをONにする



2 キーロックを解除するには、[K-LOCK]スイッチをOFFにする

キーロック中にメインダイヤルツマミを働かせるには

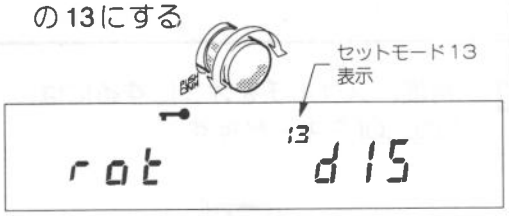
コントロールヘッドがキーロック中でも、メインダイヤルツマミを働かせることができます。

コントロールヘッドでは、

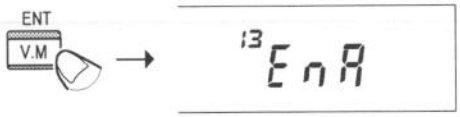
1 VFO状態を確かめる

2 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

3 メインダイヤルを回し、セットモードの13にする



4 V.M/ENTキーを押し、ディスプレーの表示をdISからEnAにする



5 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

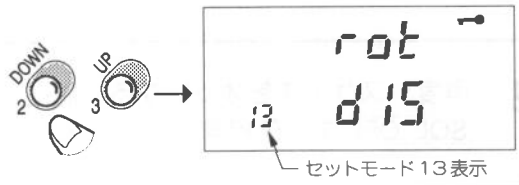
6 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

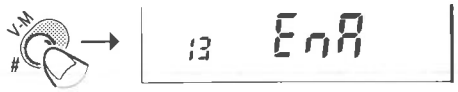
1 VFO状態を確かめる

2 SETキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの13にする



4 #/V-Mキーを押し、ディスプレーの表示をdISからEnAにする



5 SETキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる

◆この設定を解除するには、手順の4でディスプレーの表示をEnAからdISにします。

スケルチをオフにするには

スケルチが働いてると弱い信号を受けたときに、音声が出なかったり、途切れたりします。このようなときに、スケルチを一時的にオフにできます。

リモコンマイクでは、

1 スケルチをオフにするには、
SQL .OFF キーを押す

2 再度、スケルチをオンにするには、
SQL .OFF キーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 スケルチをオフにするには、
SQL .OFF キーを押す

2 再度、スケルチをオンにするには、
SQL .OFF キーを押す

スケルチをRFのレベルでコントロールするには

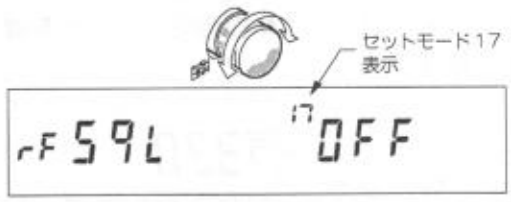
RF入力信号がある一定のレベルを超えるとスケルチが開く機能があります。このスケルチが開くRFレベルを設定することができます。

コントロールヘッドでは、

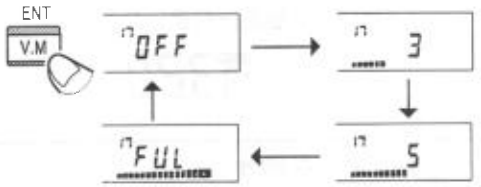
1 VFO状態を確かめる

2 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

3 メインダイヤルを回し、セットモードの17にする



4 V.M/ENTキーを押し、ディスプレーの表示をOFFから設定する値にする
V.M/ENTキーを押すたびに、OFF→3→5→FULの順で変わる



5 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる
設定したいバンドのスケルチを時計方向（↷）に回しきる
(これで手順4で設定したレベルのRFスケルチ状態になります。)

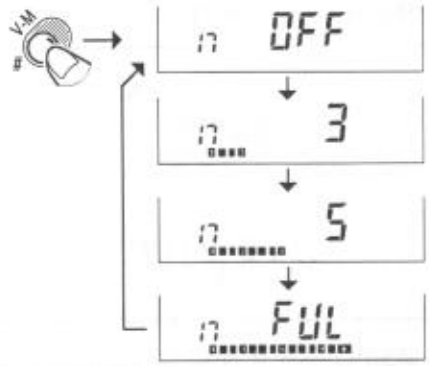
フルリモコンマイクでは、

1 VFO状態を確かめる

2 SETキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの17にする

4 #/V-Mキーを押し、ディスプレーの表示をOFFから設定する値にする
#/V-Mキーを押すたびに、OFF→3→5→FULの順で変わる



5 SETキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる
設定したいバンドのスケルチを最大にする
(これで手順4で設定したレベルのRFスケルチ状態になります。)

◆RFスケルチが設定されている場合、スキャン中に信号を受信すると、RFスケルチの設定レベル以上でないとスキャンは停止しません。
◆RFスケルチを解除するには、スケルチを下げるか、手順4でOFFを設定してください。

送信出力を変えるには

送信出力を変更することができます。
C5700, C5710, C5720では、10 W(ハイパワー), 5 W(ミドルパワー), 1 W(ローパワー)に送信出力を変更できます。C5700D, C5710D, C5720Dでは、50/40 W(ハイパワー), 10 W(ミドルパワー), 3 W(ロー パワー)に送信出力を変更できます。最初の設定(工場出荷時)はハイパワーです。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 FNCキーを押す [F]

4 MS/POキーを押す [F]

5 ディスプレーにMが点灯することを確認する(ミドルパワーに設定されました)

6 MS/POキーを押す [F]

7 ディスプレーの点灯がMからLに変わったことを確認する
(ローパワーに設定されました)

8 MS/POキーを押す [F]

9 ディスプレーのLが消えることを確認する(ハイパワーに設定されました)

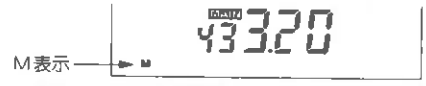
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 C/POキーを押す

4 ディスプレーにMが点灯することを確認する
(ミドルパワーに設定されました)



5 C/POキーを押す

6 ディスプレーの点灯がMからLに変わったことを確認する
(ローパワーに設定されました)

7 C/POキーを押す

8 ディスプレーのLが消えることを確認する(ハイパワーに設定されました)

●ハイパワーで送信したときのディスプレーの表示は

●ミドルパワーで送信したときのディスプレーの表示は

●ローパワーで送信したときのディスプレーの表示は

◆コントロールヘッドでは、送信出力の変更はファンクションモード中に行ってください。
◆C5700D, C5710D, C5720Dでは、ハイパワーの設定は144 MHz帯は50 W、430 MHz帯は40 Wです。

メモリー機能を使うには

メモリー機能について …… 42
メモリーするには …… 42
メモリーを呼び出すには …… 43
メモリーを消去するには …… 43
メモリーを変更するには …… 43
メモリーに優先順位をつけるには …… 44
（メモリープライオリティー）
メモリー周波数にトーンスケルチモードを書き込むには …… 44
メモリー周波数にトーンエンコードモードを書き込むには …… 45
メモリーのトーン周波数を書き換えるには …… 45
メモリー周波数にページングモードを書き込むには …… 46
メモリー周波数にコードスケルチモードを書き込むには …… 46
メモリー周波数にレピータモードを書き込むには …… 47
メモリー周波数にスキャン方法を書き込むには …… 47
メモリーされているレピータのシフト周波数を書き換えるには …… 48
メモリーを変更できないようにするには：SET16 …… 48
（メモリープロテクト）

メモリー機能について

この無線機は、メモリーが各バンドごとに20チャンネルあります(CMU181使用時)。したがって、この無線機は40波の周波数を記憶できます。また、それぞれの周波数には、レピータモード、ページングモード等も書き込むことができます。また、トーン周波数,オフセット周波数は各メモリーごとに違ったものを書き込むことができます。

その他にも、メモリーに優先順位をつけたり、メモリーを間違って変更するのを防ぐこともできます。

別売り品のCMU182に取り換えることにより、各バンドごとに100チャンネルのメモリーができます。

周波数とともに、書き込みができるのは次の通りです。

◇ トーンスケルチモード　◇ コードスケルチモード
◇ トーンエンコードモード　◇ レピータモード
◇ ページングモード　◇ スキャン方法(ポーズ/ビジー/ホールド)

◆トーン周波数、シフト周波数は各メモリーごとに違ったものを書き込むことができます。
◆VHF側でもV-V,U-U動作を使用すると、430 MHz帯の周波数を書き込むことができます。またUHF側でもV-V,U-U動作を使用すると、144 MHz帯の周波数を書き込むことができます(P 60)。

メモリーするには

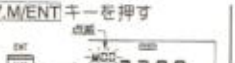
よく使う周波数を、メモリーに書き込むことができます。

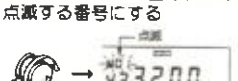
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

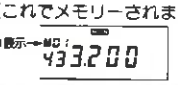
3 メインダイヤルを回し、メモリーしたい周波数にする

4 V.M/ENTキーを押す


5 メインダイヤルを回し、Mが点滅する番号にする


6 FNCキーを押す

7 V.M/ENTキーを2回押す

8 Mが表示していることを確かめる
(これでメモリーされました。)


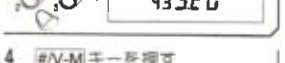
9 V.M/ENTキーを押す

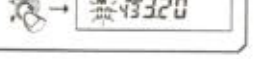
10 VFO状態に戻ったことを確かめる

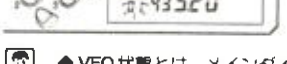
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

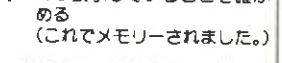
2 VFO状態を確かめる

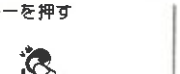
3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、メモリーしたい周波数にする


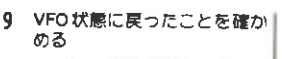
4 #/V-Mキーを押す


5 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、Mが点滅する番号にする


6 ✳/ENT•DIRECTキーを2回押す

7 Mが表示していることを確かめる
(これでメモリーされました。)


8 #/V-Mキーを押す


9 VFO状態に戻ったことを確かめる


◆VFO状態とは、メインダイヤル、2/DOWN/3/UPキーまたはテンキーで周波数を変えることができる状態です。
◆Mが点滅している番号は、メモリーが書き込まれていません。したがって、この状態では、好きな番号に書き込むことができます。

メモリーを呼び出すには

書き込まれているメモリーを呼び出します。

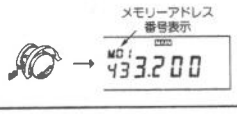
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

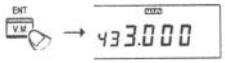
2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする



5 VFO状態にするには、V.M/ENTキーを押す



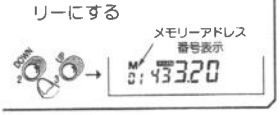
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 #/V-Mキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする



5 VFO状態にするには、#/V-Mキーを押す

メモリーを消去するには

書き込まれているメモリーを消すことができます。

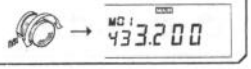
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

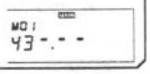
4 メインダイヤルを回し、消去するメモリーにする



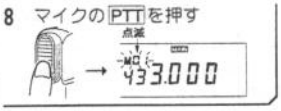
5 FNCキーを押す

6 V.M/ENTキーを押す

7 ディスプレーがメモリー変更できるようになっていることを確かめる



8 マイクのPTTを押す



9 V.M/ENTキーを押す
VFO状態に戻ったことを確かめる

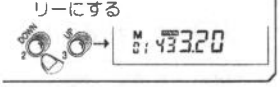
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

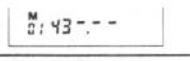
3 #/V-Mキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする

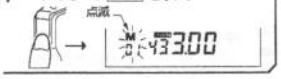


5 ＊/ENT•DIRECTキーを押す

6 ディスプレーがメモリー変更できるようになっていることを確かめる



7 マイクのPTTを押す



8 #/V-Mキーを押す
VFO状態に戻ったことを確かめる

メモリーを変更するには

書き込んであるメモリーを変更することができます。

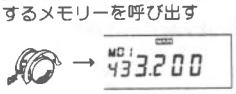
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

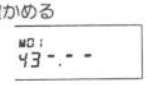
4 メインダイヤルを回し、変更するメモリーを呼び出す



5 FNCキーを押す

6 V.M/ENTキーを押す

7 ディスプレーがメモリー変更できるようになっていることを確かめる



8 メインダイヤルを回し、変更する周波数にする

9 FNCキーを押す

10 V.M/ENTキーを押す
Mが表示していることを確かめる
（これでメモリーされました。）

11 V.M/ENTキーを押す

12 VFO状態に戻ったことを確かめる

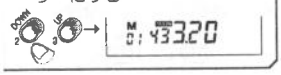
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

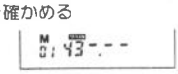
3 #/V-Mキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする

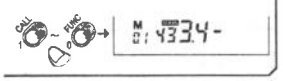


5 ＊/ENT•DIRECTキーを押す

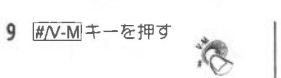
6 ディスプレーがメモリー変更できるようになっていることを確かめる



7 テンキーで、変更する周波数を入力する



8 最後の1桁を入力すると、ピー音が鳴る
（これでメモリーされました。）



9 #/V-Mキーを押す

10 VFO状態に戻ったことを確かめる

◆フルリモコンマイクで、手順7を2/DOWN (DOWN) キーまたは3/UP (UP) キーで行うことはできません。

メモリーに優先順位をつけるには
（メモリープライオリティー）

メモリースキャンを行うときの優先順位をつけることができます。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

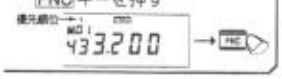
2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、優先順位をつけるメモリーにする

5 FNCキーを押す

6 メインダイヤルを回し、優先順位の番号にする F
FNCキーを押す



7 V.M/ENTキーを押す
VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 #/V-Mキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、優先順位をつけるメモリーにする

5 0/FUNCキーを押す

6 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、優先順位の番号にする F
0/FUNCキーを押す

7 #/V-Mキーを押す
VFO状態に戻ったことを確かめる

◆優先順位の番号はメインダイヤルまたは2/DOWNキー/3/UPキーを操作するたびに変わり、その順番は次のようになります。

空欄←→1←→2

◆優先順位を1にすると、プライオリティースキャン1とプライオリティースキャン2のときにスキャンが行われます。
◆優先順位を2にすると、プライオリティースキャン2のときにスキャンが行われます。
◆優先順位を空欄にすると、優先番号はつきません。

メモリー周波数にトーンスケルチモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにトーンスケルチモードを書き込むことができます。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする

5 FNCキーを押す

6 SCN/TSQキーを2回押す

7 ディスプレーにTSQが表示されるのを確認する

8 FUNCモードが解除されているときは、FNCキーを押す

9 V.M/ENTキーを2回押す

10 V.M/ENTキーを押す

11 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 #/V-Mキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする

5 6/T-SQLキーを2回押す

6 ディスプレーにTSQが表示されるのを確認する

7 *(ENT•DIRECT)キーを2回押す

8 #/V-Mキーを押す

9 VFO状態に戻ったことを確かめる

◆このときに、書き込まれるトーン周波数は、あらかじめ設定してあるトーン周波数となります。
トーンスケルチを使うと、トーン周波数が同じ人の信号を受けたときだけスケルチが開きます。

メモリー周波数にトーンエンコードモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにトーンエンコードモードを書き込むことができます。

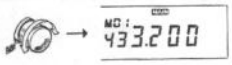
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする



5 FNCキーを押す

6 SCN/TSQキーを押す

7 ディスプレーにTが表示されるのを確認する

8 FUNCモードが解除されているときは、FNCキーを押す

9 V.M/ENTキーを2回押す

10 V.M/ENTキーを押す

11 VFO状態に戻ったことを確かめる

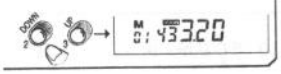
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

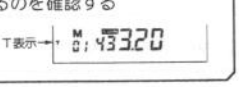
3 #/V-Mキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする



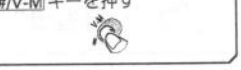
5 6/T-SQLキーを押す

6 ディスプレーにTが表示されるのを確認する



7 ✳/ENT•DIRECTキーを2回押す

8 #/V-Mキーを押す



9 VFO状態に戻ったことを確かめる

メモリーのトーン周波数を書き換えるには

メモリーに書き込まれているトーンの周波数を書き換えることができます。

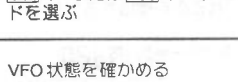
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

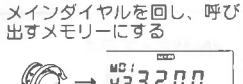
3 V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする

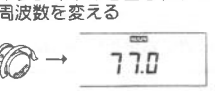


5 FNCキーを押す

6 ディスプレーがトーン周波数表示になるまでSCN/TSQキーを押す



7 メインダイヤルを回し、トーン周波数を変える



8 ディスプレーがメモリー表示になるまでSCN/TSQキーを押す

9 V.M/ENTキーを押す

10 VFO状態に戻ったことを確かめる

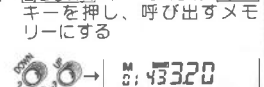
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

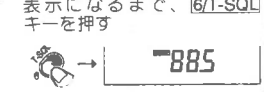
2 VFO状態を確かめる

3 #/V.Mキーを押す

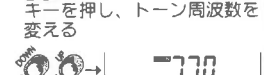
4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする



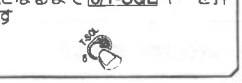
5 ディスプレーがトーン周波数表示になるまで、6/T-SQLキーを押す



6 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、トーン周波数を変える



7 ディスプレーがメモリー表示になるまで6/T-SQLキーを押す



8 #/V-Mキーを押す

9 VFO状態に戻ったことを確かめる

メモリー周波数にページングモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにページングモードを書き込むことができます。

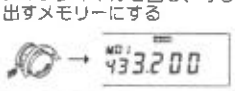
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする



5 PG•C/DTキーを押す

6 ディスプレーにPAGが表示されるのを確認する

7 FNCキーを押す

8 V.M/ENTキーを2回押す

9 V.M/ENTキーを押す

10 VFO状態に戻ったことを確かめる

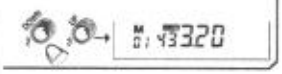
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 #/V-Mキーを押す

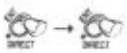
4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする



5 4/PG-Cキーを押す

6 ディスプレーにPAGが表示されるのを確認する

7 ＊/ENT•DIRECTキーを2回押す



8 #/V-Mキーを押す

9 VFO状態に戻ったことを確かめる

メモリー周波数にコードスケルチモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにコードスケルチモードを書き込むことができます。

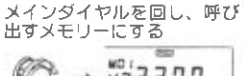
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

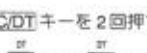
2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

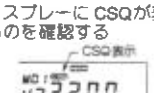
4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする



5 PG•C/DTキーを2回押す



6 ディスプレーにCSQが表示されるのを確認する



7 FNCキーを押す

8 V.M/ENTキーを2回押す

9 V.M/ENTキーを押す

10 VFO状態に戻ったことを確かめる

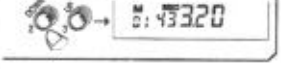
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

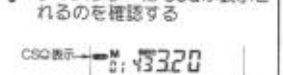
3 #/V-Mキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする



5 4/PG-Cキーを2回押す

6 ディスプレーにCSQが表示されるのを確認する



7 ＊/ENT•DIRECTキーを2回押す

8 #/V-Mキーを押す

9 VFO状態に戻ったことを確かめる

◆書き込まれているメモリー周波数に、さらにDTMFモードを書き込むことはできません。

メモリー周波数にレピータモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにレピータモードを書き込むことができます。

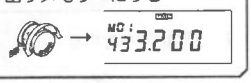
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする



5 FNCキーを押す

6 REV/RPTキーを押す

7 ディスプレーにTーが表示されるのを確認する

8 FNCキーを押す

9 V.M/ENTキーを2回押す

10 V.M/ENTキーを押す

11 VFO状態に戻ったことを確かめる

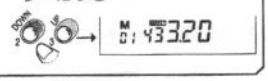
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

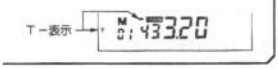
3 #/V-Mキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする



5 RPT/SFTキーを押す

6 ディスプレーにTーが表示されるのを確認する



7 *ENT•DIRECTキーを2回押す

8 #/V-Mキーを押す

9 VFO状態に戻ったことを確かめる

◆レピータを使う周波数は、アマチュア業務に使用する電波の形式および周波数の使用区分に沿った周波数でご使用ください。

メモリー周波数にスキャン方法を書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにスキャン方法を書き込むことができます。

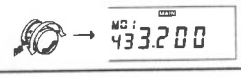
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする



5 FNCキーを押す

6 メインダイヤルツマミを押す

7 ディスプレーにBが表示されるのを確認する

8 FUNCモードが解除されているときは、FNCキーを押す

9 V.M/ENTキーを2回押す

10 V.M/ENTキーを押す

11 VFO状態に戻ったことを確かめる

◆Bが表示されているときに、再度FUNCモードでメインダイヤルツマミを押すと、Bが消えてHが点灯します。

ブランク　:ポーズ
B　:ビジー
H　:ホールド

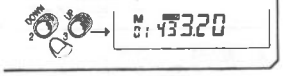
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 #/V-Mキーを押す

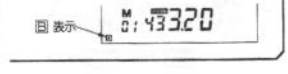
4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする



5 FUNCキーを押す

6 V-V,U-Uキーを押す

7 ディスプレーにBが表示されるのを確認する



8 FUNCキーを押して、FUNCモードを解除する

9 *ENT•DIRECTキーを2回押す

10 #/V-Mキーを押す

11 VFO状態に戻ったことを確かめる

メモリーされているレピータのシフト周波数を書き換えるには

メモリーされているレピータのシフト周波数を書き換えることができます。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

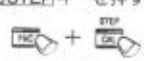
3 V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする

5 FNCキーを押しながら、CAL/STEPキーを押す

6 メインダイヤルを回し、設定する周波数にする

7 FNCキーを押しながら、CAL/STEPキーを押す



8 V.M/ENTキーを押す

9 VFO状態に戻ったことを確かめる

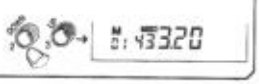
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 #/V-Mキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、呼び出すメモリーにする



5 ディスプレーがシフト周波数表示になるまでRPT/SFTキーを押し続ける

6 ディスプレーがシフト周波数を設定できる状態になったことを確かめる

7 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、設定する周波数にする

8 ディスプレーがメモリー表示になるまでRPT/SFTキーを押し続ける

9 #/V-Mキーを押す

10 VFO状態に戻ったことを確かめる

◆フルリモコンマイクでの手順5、8では、RPT/SFTキーは0.5秒以上押してください。

◆フルリモコンマイクでの手順7では、*/ENT•DIRECTキーを押した後、テンキーでダイレクト入力することができます。

メモリーを変更できないようにするには(メモリープロテクト)

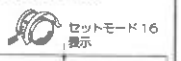
メモリーされている周波数やいろいろな設定を間違って変更または、メモリーごとに消去するのを防ぐことができます。

コントロールヘッドでは、

1 VFO状態を確かめる

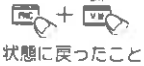
2 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

3 メインダイヤルを回し、セットモードの16にする



4 V.M/ENTキーを押し、ディスプレーの表示をOFFからonにする

5 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す



VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 VFO状態を確かめる

2 SETキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの16にする

4 #/V-Mキーを押し、ディスプレーの表示をOFFからonにする

5 SETキーを押す

VFO状態に戻ったことを確かめる

◆メモリープロテクトを設定しても、メモリーを初めの状態に戻すリセット動作(オールリセット、メモリーリセット)を行うと、メモリー内容は消去されます。(P 62)

スキャン機能を使うには

スキャン機能について …… 50
スキャンする前の準備 …… 51
1 MHz内でスキャンするには …… 52
(1 MHz スキャン)
バンドの全域をスキャンするには …… 52
(オールスキャン)
指定した範囲をスキャンするには…… 52
(プログラムスキャン)
メモリー周波数をスキャンするには …… 53
(メモリースキャン)
優先順位をつけられたメモリーをスキャンするには …… 53
(プライオリティースキャン)
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには …… 53
(ブロックメモリースキャン)
トーンスケルチ状態でスキャンするには …… 54
スキャンする速さを変えるには : SET01 …… 54
スキャン方法を選択するには …… 54
(ポーズスキャン/ビジースキャン/ホールドスキャンの選択) : SET02, 03
ホールドスキャンの待ち時間を変更するには: SET04 …… 54

スキャン機能について

この機能は、自動的に周波数を変え、受信したい信号を探し出すものです。
この機能には、次の6種類の方法があり、より早く信号を探し出すことができます。

◇ 1 MHz スキャン
周波数の1MHz台は越えずにスキャンします。

◇ オールスキャン
バンドの全域をスキャンします。

◇ プログラムスキャン
指定した範囲をスキャンします。

◇ メモリースキャン
メモリーしている周波数をスキャンします。

◇ ブロックメモリースキャン
メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリー番号の10の桁を1つのブロックとします。

◇ プライオリティースキャン
メモリーに優先順位をつけスキャンします。

また、スキャンの仕方には、次の3種類があります。

◇ ポーズスキャン
信号を受けるとスキャンは止まります。しかし、約5秒後には信号を受けていても、スキャンを再開します。

◇ ビジースキャン
信号を受けている間は、スキャンは止まります。信号が無くなると、約1．5秒後にスキャンを再開します。

◇ ホールドスキャン
信号を受けている間、スキャンは止まります。信号が無くなってから、スキャンを再開するまでの時間を決めることができます。:SET04

トーンスケルチ状態でスキャンを開始したときは、信号を受信するとスキャンするスピードが遅くなり、トーン周波数が一致したときにスキャンが停止し、スケルチが開きます。

スキャンする前の準備

コントロールヘッドでは、

1 ザーという音が出ない位置まで、SQL ツマミを回す

フルリモコンマイクでは、

1 A/VO-SQ キーを押す

2 ディスプレーに SQ 表示が点滅するのを確認する
Vが表示しているときは、再度、A/VO-SQ キーを押す

3 ザーという音が出ない位置まで、3/UP キーを押す

◆ザーという音が出ていたり、信号を受けているときは、スキャンを始めません。SQLが働き、信号を受けていないことを確認してください。

◆スキャン中に、PTT を押すと、スキャンモードが解除され送信をします。

◆スキャンする方向を変えるときは、マイクの 2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押すか、メインダイヤルを右または左に回してください。

◆信号を受けスキャンが止まっている間にマイクの 2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押すか、メインダイヤルを右または左に回すと、次の周波数に動きます。

◆RF スケルチが設定されている場合、スキャン中に信号を受信すると、RF スケルチの設定レベル以上でないとスキャンは停止しません。

1MHz内でスキャンするには(1MHzスキャン)

その表示されている周波数の1MHz台を越えずに、スキャンします。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 メインダイヤルを回し、スキャンを始める周波数にする

3 SCN/TSQキーを押す

4 100kHz台以下がスキャンしていることを確認する

5 終了するには、SCN/TSQキーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーを押し、バンドを選ぶ

2 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、スキャンを始める周波数にする

3 8/SCANキーを押す

4 100kHz台以下がスキャンしていることを確認する

5 終了するには、8/SCANキーを押す

バンドの全域をスキャンするには(オールスキャン)

バンドの全域をスキャンします。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 メインダイヤルを回し、スキャンを始める周波数にする

3 SCN/TSQキーを押し、1MHzスキャンを始める

4 FNCキーを押しながら、SCN/TSQキーを押し続ける

5 ピッという音がしたら、それぞれのキーを放す

6 スキャンしていることを確認する

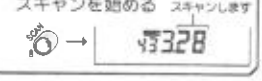
終了するには、SCN/TSQキーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーを押し、バンドを選ぶ

2 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、スキャンを始める周波数にする

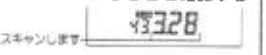
3 8/SCANキーを押し、1MHzスキャンを始める



4 0/FUNCキーを押す

5 8/SCANキーを押す

6 ピッという音がしたら、スキャンしていることを確認する



終了するには、8/SCANキーを押す

◆コントロールヘッドの手順の4で、それぞれのキーは0.5秒以上押してください。
一度オールスキャンに設定すると、次のスキャンからはSCN/TSQキーまたは8/SCANキーを押すだけでオールスキャンになります。
◆オールスキャンを1MHzスキャンにもどすには、オールスキャン中に手順4、5を行います。このとき、ポッという音がします。

指定した範囲をスキャンするには(プログラムスキャン)

メモリーされている周波数を指定し、その間でスキャンします。スキャンを始める周波数より スキャンを終る周波数の方が低い場合はその間以外の範囲をスキャンします。

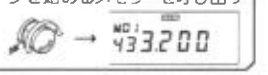
コントロールヘッドでは、

スキャンするには

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 V.M/ENTキーを押す
《メモリーを呼び出し状態》

3 メインダイヤルを回し、スキャンを始めるメモリーを呼び出す

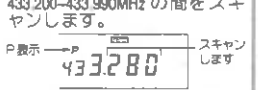


4 FNCキーを押しながら、SCN/TSQキーを押す(ピッ音)

5 メインダイヤルを回し、スキャンを終わるメモリーを呼び出す

6 FNCキーを押しながら、SCN/TSQキーを押す(ピッ音)

7 ディスプレーにPが表示され、スキャンが始まることを確認する
この設定例の場合は433.200~433.990MHzの間をスキャンします。



終了するには、SCN/TSQキーを2回押すか、FNCキーを押しながらSCN/TSQキーを押す

もう一度同じ範囲で、スキャンするには

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 FNCキーを押しながら、SCN/TSQキーを押す

4 ディスプレーにPが表示され、スキャンが始まることを確認する

終了するには、SCN/TSQキーを2回押すか、FNCキーを押しながら、SCN/TSQキーを押す

スキャンする範囲を変更するには

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 V.M/ENTキーを押す
《メモリーを呼び出し状態》

3 FNCキーを押しながら、SCN/TSQキーを押す(ポッ音)
《この動作で、プログラムスキャンの指定が解除されました》

4 スキャンするには手順3より再度始める

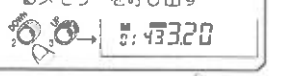
フルリモコンマイクでは、

スキャンするには

1 D/BANDキーを押し、バンドを選ぶ

2 #/V-Mキーを押す
《メモリーを呼び出し状態》

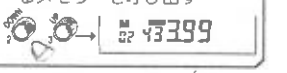
3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、スキャンを始めるメモリーを呼び出す



4 0/FUNCキーを押す

5 9/P•Sキーを押す
(ピッ音)

6 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、スキャンを終わるメモリーを呼び出す

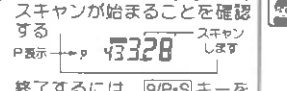


7 0/FUNCキーを押す

8 9/P•Sキーを押す
(ピッ音)

9 9/P•Sキーを押す

10 ディスプレーにPが表示され、スキャンが始まることを確認する



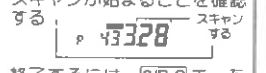
終了するには、9/P•Sキーを押す

もう一度同じ範囲で、スキャンするには

1 D/BANDキーを押し、バンドを選ぶ

2 9/P•Sキーを押す

3 ディスプレーにPが表示され、スキャンが始まることを確認する



終了するには、9/P•Sキーを押す

スキャンする範囲を変更するには

1 D/BANDキーを押しバンドを選ぶ

2 #/V-Mキーを押す
《メモリーの呼び出し状態》

3 0/FUNCキーを押す

4 9/P•Sキーを押す
(ポッ音)
《この状態でプログラムスキャンの指定が解除されました》

5 「スキャンするには」の手順3より再度始める

◆プログラムスキャンの範囲を設定した後に、範囲の設定で用いたメモリーを書き換えても、プログラムスキャンの範囲は変化しません。

メモリー周波数をスキャンするには（メモリースキャン）

メモリーしている周波数をすべてスキャンします。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 MS/POキーを押す

3 スキャンしていることを確認する

4 終了するには、MS/POキーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーを押し、バンドを選ぶ

2 7/MSキーを押す

3 スキャンしていることを確認する

4 終了するには、7/MSキーを押す

◆この場合のスキャン方法は、各メモリーのスキャン方法に従って動作します。
◆スケルチの設定をザー音がなくなった所にしないと、弱い信号ではスキャンが止まらないことがあります。

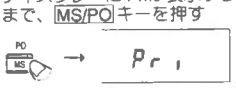
優先順位をつけられたメモリーをスキャンするには（プライオリティースキャン）

メモリーに優先順位をつけ、その優先順位に従いスキャンします。

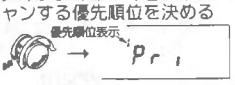
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

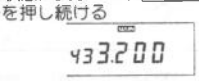
2 ディスプレーにPriが表示するまで、MS/POキーを押す



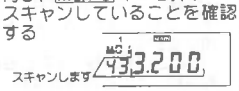
3 メインダイヤルを回し、スキャンする優先順位を決める



4 VFO状態に戻るまで、MS/POキーを押し続ける



5 再び、MS/POキーを押す
スキャンしていることを確認する

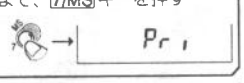


スキャンを終了するには、MS/POキーを押す

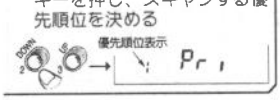
フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーを押し、バンドを選ぶ

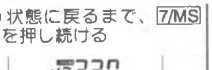
2 ディスプレーにPriが表示するまで、7/MSキーを押す



3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、スキャンする優先順位を決める



4 VFO状態に戻るまで、7/MSキーを押し続ける



5 再び、7/MSキーを押し、スキャンしていることを確認する

スキャンを終了するには、7/MSキーを押す

◆手順2でディスプレーにbLoが表示されたときは
コントロールヘッドでは、MS/POキーを押してください。また、フルリモコンマイクでは、7/MSキーを押してください。
◆ブロックスキャンとプライオリティースキャンは、コントロールヘッドのMS/POキー、またはフルリモコンマイクの7/MSキーを押すごとに変わります。
◆プライオリティースキャン1のときは、優先順位が1のメモリーをスキャンします。
◆プライオリティースキャン2のときは、優先順位が1および2のメモリーをスキャンします。
◆優先順位をつけないメモリースキャン（すべてのメモリースキャン）をするときには優先順位表示を空欄に設定した後、メモリースキャンを始めます。

メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには（ブロックメモリースキャン）

メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリー番号の10の桁を1つのブロックとします。ブロック番号とメモリー番号の関係は下の表のようになっています。

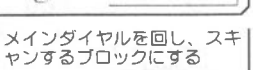
ブロック番号	メモリー番号	ブロック番号	メモリー番号
0	M00～M09	5	M50～M59
1	M10～M19	6	M60～M69
2	M20～M29	7	M70～M79
3	M30～M39	8	M80～M89
4	M40～M49	9	M90～M99

コントロールヘッドでは、

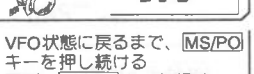
1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 ディスプレーにPriが表示されるまでMS/POキーを押す

3 MS/POキーを押すとbLoに表示が変わる

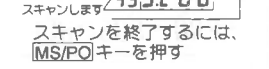


4 メインダイヤルを回し、スキャンするブロックにする



5 VFO状態に戻るまで、MS/POキーを押し続ける
再び、MS/POキーを押す

6 スキャンしていることを確認する



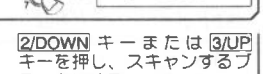
スキャンを終了するには、MS/POキーを押す

フルリモコンマイクでは、

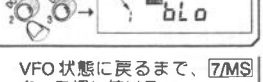
1 D/BANDキーを押し、バンドを選ぶ

2 ディスプレーにPriが表示されるまで7/MSキーを押す

3 7/MSキーを押すとbLoに表示が変わる

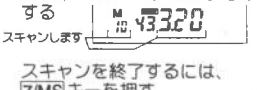


4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、スキャンするブロックにする



5 VFO状態に戻るまで、7/MSキーを押し続ける
再び、7/MSキーを押す

6 スキャンしていることを確認する



スキャンを終了するには、7/MSキーを押す

◆スキャンしようとするブロックのメモリー番号がすべて空いているときは、この機能は働きません。
◆ブロック番号の2-9はオプションのメモリーユニット（CMU182）が実装されていないと設定できません。
◆ブロック指定をしないメモリースキャン（すべてのメモリースキャン）をするときには、プライオリティースキャンにし、優先順位表示を空欄に設定した後、メモリースキャンを開始してください。
◆ブロック番号は、バンドごとに設定できます。

トーンスケルチ状態でスキャンするには

トーンスケルチが働いている状態でスキャンします。信号を受信するとスキャンするスピードが遅くなり、トーン周波数が一致したときにスキャンが止まります。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 FNCキーを押す

3 SCN/TSQキーを2回押す

4 ディスプレーにTSQと周波数が表示されていることを確認する

5 SCN/TSQキーを押す

6 スキャンしていることを確認する

7 終了するには、SCN/TSQキーを押す

フルリモコンマイクでは、

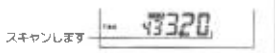
1 D/BANDキーを押し、バンドを選ぶ

2 6/T-SQLキーを2回押す

3 ディスプレーにTSQとトーン周波数が表示されていることを確認する

4 8/SCANキーを押す

5 スキャンしていることを確認する



6 終了するには、8/SCANキーを押す

お知らせ

◆このスキャンを行うには、別売りのトーンスケルチユニットCTN5700が必要です。

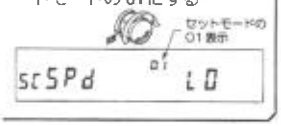
スキャンする速さを変えるには

スキャンするスピードを変えることができます。

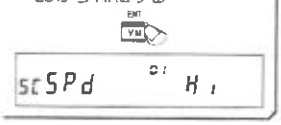
コントロールヘッドでは、

1 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

2 メインダイヤルを回し、セットモードの01にする



3 V.M/ENTキーを押し、表示をLoからHiにする

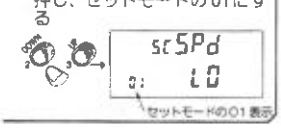


4 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 SETキーを押す

2 2/DOWNまたは3/UPキーを押し、セットモードの01にする



3 #/V-Mキーを押し、表示をLoからHiにする

4 SETキーを押す

◆スキャンスピードを速く(Hi)したときは、スケルチの設定をザー音がなくなった所にしないと弱い信号ではスキャンが止まらないことがあります。

スキャン方法を選択するには(ポーズスキャン/ビジースキャン/ホールドスキャンの選択)

ポーズスキャンでは、信号を受けるとスキャンは止まります。しかし、約5秒後には信号を受けていても、スキャンを再開します。

ビジースキャンでは、信号を受けている間は、スキャンは止まります。信号が無くなると、約1.5秒後にスキャンを再開します。

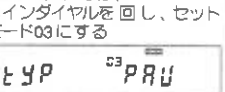
ホールドスキャンでは、信号を受けている間、スキャンは止まります。信号が無くなってから、スキャンを再開するまでの時間を決めることができます。

コントロールヘッドで決めるには

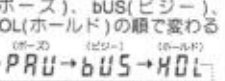
1 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

2 VHFバンドでは、メインダイヤルを回し、セットモード02にする

UHFバンドでは、メインダイヤルを回し、セットモード03にする



3 V.M/ENTキーを押し、スキャン方法を決める
V.M/ENTキーを押すたびに、ディスプレーの表示はPAU(ポーズ)、bUS(ビジー)、HOL(ホールド)の順で変わる

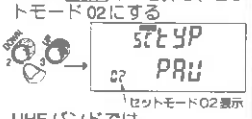


4 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す
ビジースキャンを選んだときは、ディスプレーにBが表示されるのを確認する
ホールドスキャンを選んだときは、ディスプレーにHが表示されるのを確認する

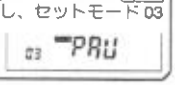
フルリモコンマイクで決めるには

1 SETキーを押す

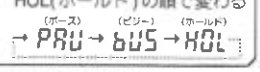
2 VHFバンドでは、2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモード02にする



UHFバンドでは、2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモード03にする



3 #/V-Mキーを押し、スキャン方法を決める
#/V-Mキーを押すたびに、ディスプレーの表示はPAU(ポーズ)、bUS(ビジー)、HOL(ホールド)の順で変わる



4 SETキーを押す
ビジースキャンを選んだときは、ディスプレーにBが表示されるのを確認する
ホールドスキャンを選んだときは、ディスプレーにHが表示されるのを確認する

◆初期状態(工場出荷時)では、ポーズスキャンになっています。
◆メモリースキャン以外のスキャンが対象です。

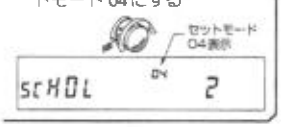
ホールドスキャンの待ち時間を変更するには

ホールドスキャンでは、受けていた信号が無くなってから、スキャンを始めるまでの時間を決めることができます。

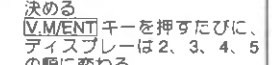
コントロールヘッドでは、

1 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

2 メインダイヤルを回し、セットモード04にする



3 V.M/ENTキーを押し、時間を決める
V.M/ENTキーを押すたびに、ディスプレーは2、3、4、5の順に変わる
2のときは約2秒、3のときは約3秒、4のときは約4秒、5のときは約5秒となる

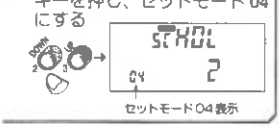


4 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

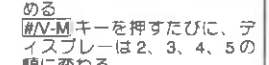
フルリモコンマイクでは、

1 SETキーを押す

2 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモード04にする



3 #/V-Mキーを押し、時間を決める
#/V-Mキーを押すたびに、ディスプレーは2、3、4、5の順に変わる
2のときは約2秒、3のときは約3秒、4のときは約4秒、5のときは約5秒となる



4 SETキーを押す

◆初期状態(工場出荷時)では、時間は2になっています。

レピータを使うには

レピータ運用について …… 56
オートレピータモード …… 57
手動でレピータモードを設定するには …… 57
送信周波数を受信周波数より高い方向にシフトするには …… 57
レピータ運用時に送信と受信の周波数を逆にするには（リバース）…… 57
レピータ運用のオフセット周波数を変えるには …… 58
レピータ運用のトーン周波数を変えるには …… 58
オートレピータモードを解除するには：SET14 …… 58

レピータ運用について

●レピータ局(自動中継局)を使用して、交信を行うことをレピータ運用といいます。

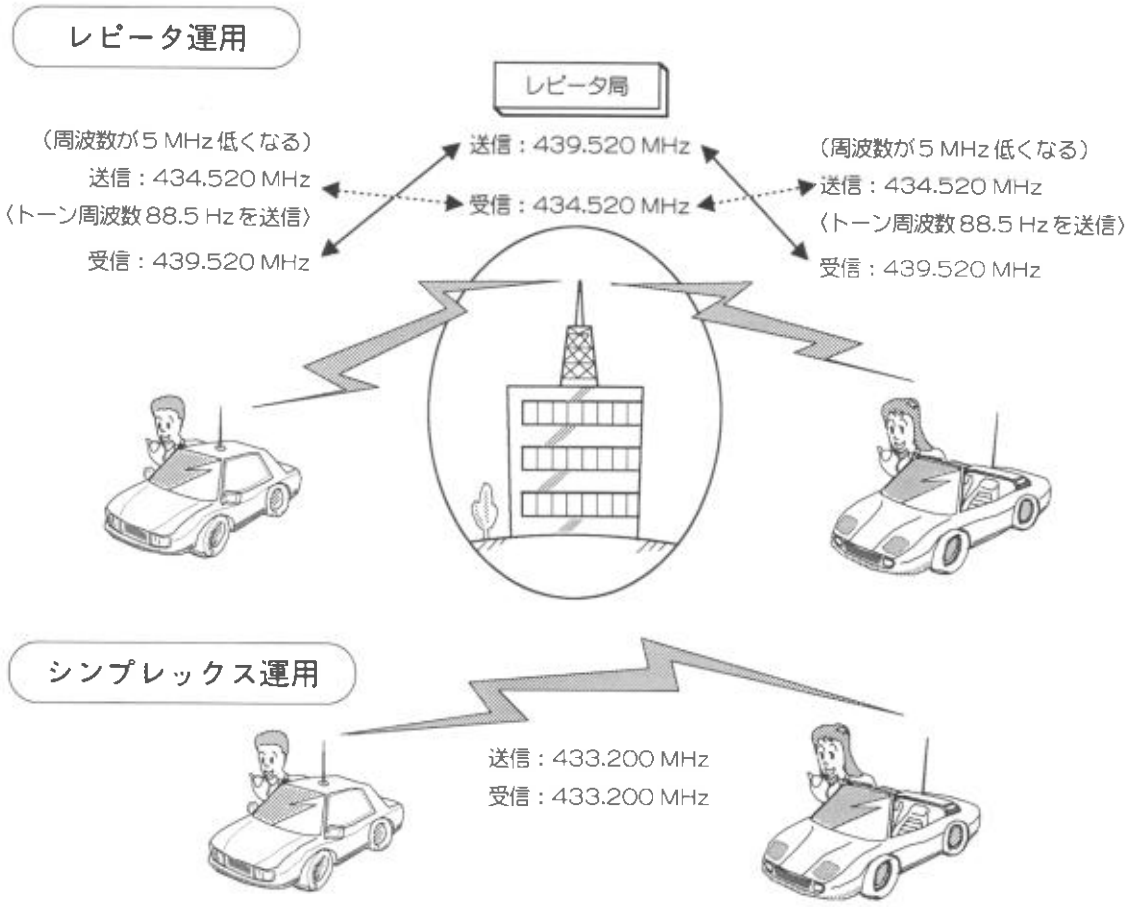
●レピータ局を使用すると、直接電波の届かない場所と交信できます。

●レピータ運用では、送信と受信の周波数が異なります。この周波数の差をオフセット周波数といいます。430 MHz帯では、オフセット周波数は5 MHzです。

●本機をレピータモードにして送信すると、自動的に送信周波数が5 MHz低くなります。

●レピータ局は送信信号にトーン信号(88.5 Hz)があるときに使用できます。

●本機をレピータモードにして送信すると、自動的に88.5 Hzのトーン信号が出ます。



オートレピータモード

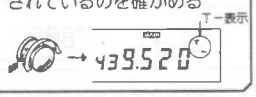
オートレピータモードとは、受信周波数をレピータ運用の周波数に合わせると、自動的にオフセット周波数とトーン信号を設定します。

コントロールヘッドでは、

1 430キーを押す

2 VFO状態を確かめる

3 メインダイヤルを回し、レピータ局の周波数に合わせるディスプレーにTとーが表示されているのを確かめる



4 受信するには、話したい相手が送信するのを待つ

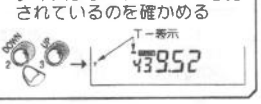
5 送信するには、PTTを押しながら、マイクに向かって話す

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーを押し、430 MHz帯を選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、レピータ局の周波数に合わせるディスプレーにTとーが表示されているのを確かめる



4 受信するには、話したい相手が送信するのを待つ

5 送信するには、PTTを押しながら、マイクに向かって話す

◆フルリモコンマイクでは手順3でダイレクト入力ができます。

手動でレピータモードを設定するには

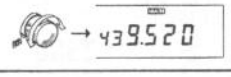
オートレピータモードが解除されているときに、レピータ運用が行えます。

コントロールヘッドでは、

1 430キーを押す

2 VFO状態を確かめる

3 メインダイヤルを回し、レピータ局の周波数に合わせる

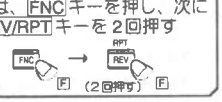


4 FNCキーを押す

5 REV/RPTキーを押す

6 ディスプレーにTーが表示されるのを確認する

7 レピータモードを終わらせるには、FNCキーを押し、次にREV/RPTキーを2回押す

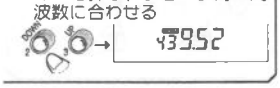


フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーを押し、430MHz帯を選ぶ

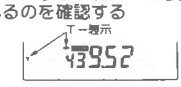
2 VFO状態を確かめる

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、レピータ局の周波数に合わせる



4 RPT/SFTキーを押す

5 ディスプレーにTーが表示されるのを確認する



6 レピータモードを終わらせるには、RPT/SFTキーを2回押す

◆フルリモコンマイクでは手順3でダイレクト入力ができます。

送信周波数を受信周波数より高い方向にシフトするには

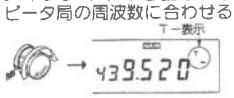
通常のレピータモードでは、オフセット周波数は5 MHz低くなります。しかし、本機ではオフセット周波数を5 MHz高くすることができます。

リモコンヘッドでは、

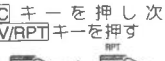
1 430キーを押す

2 VFO状態を確かめる

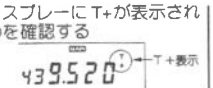
3 メインダイヤルを回し、レピータ局の周波数に合わせる



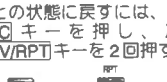
4 FNCキーを押し次に、REV/RPTキーを押す



5 ディスプレーにT+が表示されるのを確認する



6 もとの状態に戻すには、FNCキーを押し、次にREV/RPTキーを2回押す

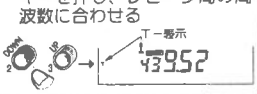


フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーを押し、430MHz帯を選ぶ

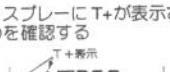
2 VFO状態を確かめる

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、レピータ局の周波数に合わせる



4 RPT/SFTキーを押す

5 ディスプレーにT+が表示されるのを確認する



6 もとの状態に戻すには、RPT/SFTキーを2回押す

◆オフセットした周波数がアマチュアバンドからはずれるときは、送信できません。また、このとき、ディスプレーにはOFFが表示されます。
◆フルリモコンマイクでは手順3でダイレクト入力ができます。

レピータ運用時に送信と受信の周波数を逆にするには（リバース）

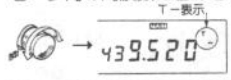
一般のレピータ運用時では、送信周波数は受信周波数より5 MHz低くなっています。しかし、この無線機では、送信と受信の周波数を逆にすることができます。
相手局の直接波（レピータ局を介さない信号）を受信したいときに使用します。また、直接波が受信できる場合は、レピータ機能を使用しない交信（シンプレックス）を試してみてください。

コントロールヘッドでは、

1 430キーを押し、430 MHz帯を選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 メインダイヤルを回し、レピータ局の周波数に合わせる



4 REV/RPTキーを押す

5 ディスプレーの表示が5 MHz低くなります
また、－または＋が点滅しているのを確認する

6 リバースを終わらせるには、REV/RPTキーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーを押し、430 MHz帯を選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、レピータ局の周波数に合わせる

4 REV/STEPキーを押す

5 ディスプレーの周波数が5 MHz低くなります
また、－または＋が点滅しているのを確認する

6 リバースを終わらせるには、REV/STEPキーを押す

◆フルリモコンマイクでは手順3でダイレクト入力ができます。

レピータ運用のオフセット周波数を変えるには

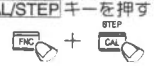
本機はオフセット周波数を 5 MHz以外に設定できます。これは、将来5 MHz以外のオフセット周波数を使用するレピータ局に対応するためです。

コントロールヘッドでは、

1 430 キーを押す

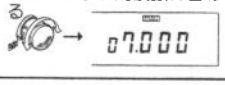
2 VFO 状態を確かめる

3 FNC キーを押しながら、CAL/STEP キーを押す



4 ディスプレーがオフセット周波数の表示になっていることを確認する

5 メインダイヤルを回し、新しいオフセット周波数に合わせる



6 FNC キーを押しながら、CAL/STEP キーを押す

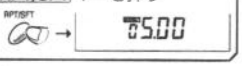
7 ディスプレーが変更前に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 D/BAND キーを押し、430MHz帯を選ぶ

2 VFO 状態を確かめる

3 ディスプレーがオフセット周波数の表示になるまで RPT/SFT キーを押す



4 2/DOWN または 3/UP キーを押し、新しいオフセット周波数に合わせる

5 ディスプレーが変更前に戻るまで RPT/SFT キーを押す

◆フルリモコンマイクでは、手順 4 でダイレクト入力ができます。
(10MHz台からの入力です)

レピータ運用のトーン周波数を変えるには

本機はトーン周波数を 88.5 Hz以外に設定できます。これは、将来88.5 MHz以外のトーン周波数を使用するレピータ局に対応するためです。ただし、他のトーン周波数に変えるには別売りのトーンスケルチユニット CTN5700 が必要です。

コントロールヘッドでは、

1 430 キーを押す

2 VFO 状態を確かめる

3 FNC キーを押す

4 ディスプレーがトーン周波数の表示になるまで、SCN/TSQ キーを押す

5 メインダイヤルを回し、新しいトーン周波数に合わせる

6 FUNC モードが解除されているときは FNC キーを押す

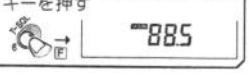
7 ディスプレーが変更前に戻るまで SCN/TSQ キーを押す

フルリモコンマイクでは、

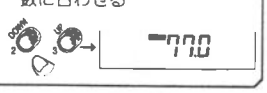
1 D/BAND キーを押し、430MHz帯を選ぶ

2 VFO 状態を確かめる

3 ディスプレーがトーン周波数の表示になるまで、6/T-SQL キーを押す



4 2/DOWN または 3/UP キーを押し、新しいオフセット周波数に合わせる



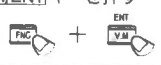
5 ディスプレーが変更前に戻るまで、6/T-SQL キーを押す

オートレピータモードを解除するには

初期状態(工場出荷状態)では、本機はオートレピータモードになっています。
このモードを解除することができます。

コントロールヘッドでは、

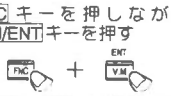
1 FNC キーを押しながら、V.M/ENT キーを押す



2 メインダイヤルを回し、セットモードの 14 にする

3 V.M/ENT キーを押し、表示を on から OFF にする

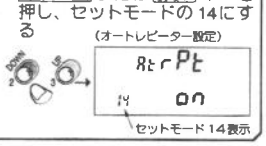
4 FNC キーを押しながら、V.M/ENT キーを押す



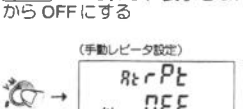
フルリモコンマイクでは、

1 SET キーを押す

2 2/DOWN または 3/UP キーを押し、セットモードの 14 にする



3 #/V-M キーを押し、表示を on から OFF にする



4 SET キーを押す

こんな使いかたもできます

使わないバンド（周波数帯）を消すには（バンドオフ）…… 60
ディスプレーを同じバンド(周波数帯)にするには(V-V,U-U) …… 60
VFOの周波数を同時に変えるには（VFOリンク）…… 60
間違って送信しないためには（PTTロック）：SET15 …… 60
送信の自動停止を設定するには:SET19 …… 61
サブバンドの音声出力を小さくするには（サブバンドミュート）…… 61
音声のミュートレベルを変えるには…… 61
（ミュートダウン音量 -6dB, -12dB, -18dB>：SET18
本体のスピーカーからの音を止めるには：SET05 …… 61
マイクのスピーカーからの音を止めるには：SET06 …… 62
ビープ音の大きさを変えるには：SET00 …… 62
設定を初めの状態に戻すには…… 62
（リセット）
すべての設定を初めの状態に戻すには（オールリセット）
メモリー以外の設定を初めの状態に戻すには（ノーマルリセット）
メモリーの内容を消すには（メモリーリセット）
セットモード機能の一覧 …… 63

使わないバンド(周波数帯)を消すには(バンドオフ)

使わないバンドを消すことができます。これをバンドオフといいます。

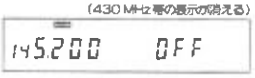
コントロールヘッドでは

1 144 MHz帯を消すには FNCキーを押しながら144キーを押す

(144 MHz帯の表示が消える)

2 430 MHz帯を消すには FNCキーを押しながら430キーを押す

(430 MHz帯の表示が消える)



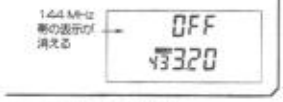
3 この操作を解除するには、FNCキーを押しながら消したバンドのキーを押す

フルリモコンマイクでは

1 D/BANDキーで消さないバンドを選ぶ

2 0/FUNCキーを押しながら、D/BANDキーを押す

3 サブバンドの表示がOFFになったことを確認する



4 この操作を解除するには、0/FUNCキーを押しながら、D/BANDキーを押す

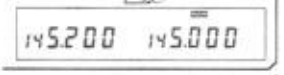
注 ◆VHF側を430 MHz帯、UHF側を144 MHz帯にしているときバンドオフすると、送信することができなくなります。

ディスプレーを同じバンド(周波数帯)にするには(V-V,U-U)

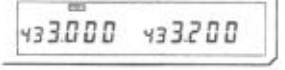
通常ディスプレーの表示は、144 MHz帯と430 MHz帯を表示しています。しかし、この表示を一方のバンドだけにできます。

コントロールヘッドでは

1 両方の表示を144 MHz帯にするには、430 MHz帯をメインバンドにしてからディスプレーの表示が両方144 MHz帯になるまで、430キーを押す



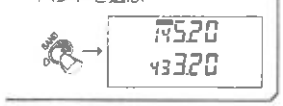
2 両方の表示を430 MHz帯にするには、144 MHz帯をメインバンドにしてからディスプレーの表示が両方430 MHz帯になるまで、144キーを押す



3 この操作を解除するには、表示されていないバンドをメインバンドにし、表示されるまでキーを押す

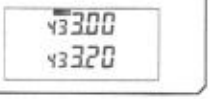
フルリモコンマイクでは

1 D/BANDキーで切り換えたいバンドを選ぶ



2 V-V,U-Uキーを押す

3 メインバンドもサブバンドと同じバンドになったことを確認する



4 この操作を解除するには、表示されていないバンドをメインバンドにし、V-V,U-Uキーを押す

◆VHF側を430 MHz帯、UHF側を144 MHz帯に設定することもできます。
◆周波数が同じときでも、Sメーターの振れは異なる場合があります。
◆バンドが同じときに送信すると、もう一方のバンドも受信ができなくなります。このとき、もう一方のバンドのMUTE表示が点滅します。
また、VHF側をUHFに、UHF側をVHFにした状態で送信したときも、もう一方のバンドは受信ができなくなります。

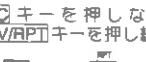
注 ◆サブバンド側の受信機の感度と混信特性は、本来の受信機より性能が低下します。
左右の周波数の組み合わせで無変調波が受信されることがありますが、これは本体受信部の周波数構成によるもので、故障ではありません。

VFOの周波数を同時に変えるには(VFOリンク)

ディスプレーに表示されている両方のVFO周波数を同時に変えることができます。この操作をVFOリンクと呼びます。

コントロールヘッドでは

1 FNCキーを押しながら、REV/RPTキーを押し続ける

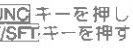


2 ディスプレーに∞マークが表示されることを確認する これでメインダイヤルを回すと両方の周波数が同時に変わります。

3 この操作を解除するには、∞マークが消えるまでFNCキーを押しながらREV/RPTキーを押し続ける

フルリモコンマイクでは

1 0/FUNCキーを押しながら、RPT/SFTキーを押す



2 ディスプレーに∞マークが表示されることを確認する これで2/DOWNキーまたは3/UPキーを押すと両方の周波数が同時に変わります。

3 この操作を解除するには、0/FUNCキーを押しながらRPT/SFTキーを押す

◆このときの周波数ステップはメインバンド側で設定されている周波数ステップで動作します。
◆両バンドとも、UHFにし、片方の周波数をレピータのアップリンク周波数(434MHz台)もう一方のバンドをレピータのダウンリンク周波数(439MHz台)にしてVFOリンクを設定することにより、アップリンクとダウンリンクを対にして受信することができます。

434.50 DOWN ← VHF側 434.52 → UP 434.54
439.50 ← UHF側 439.52 → 439.54
(周波数ステップ20 kHz)

間違って送信しないためには(PTTロック)

間違って送信しないように、PTTの動作を停止することができます。

コントロールヘッドでは、

1 VFO状態を確かめる

2 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

3 メインダイヤルを回し、セットモードの15にする

4 V.M/ENTキーを押し、ディスプレーの表示をOFFからonにする

5 FNCキーを押しながらV.M/ENTキーを押す

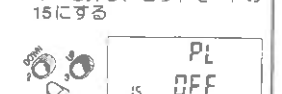
6 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

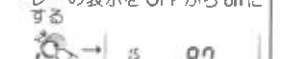
1 VFO状態を確かめる

2 SETキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの15にする



4 #/V-Mキーを押し、ディスプレーの表示をOFFからonにする



5 SETキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる

◆この操作を解除するには、手順4で表示をonからOFFに変えます。
◆PTTロック状態でPTTを押すと、ディスプレーの周波数表示がPLになります。

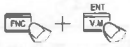
送信の自動停止を設定するには

連続15分以上の送信が続くと、自動的に送信を停止する機能が装備されています。送信が停止するときは、ビープ音が鳴り知らせます。この機能は初期状態で解除されています。

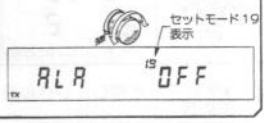
コントロールヘッドでは、

1 VFO状態を確かめる

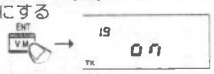
2 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す



3 メインダイヤルを回し、セットモードの19にする



4 V.M//ENTキーを押し、ディスプレーの表示をOFFからonにする



5 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる

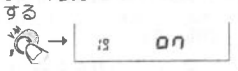
フルリモコンマイクでは、

1 VFO状態を確かめる

2 SETキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの19にする

4 #/V-Mキーを押し、ディスプレーの表示をOFFからonにする



5 SETキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる

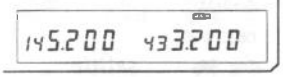
◆誤送信を防ぐためにも、この機能はなるべくonにして使用してください。

サブバンドの音声出力を小さくするには（サブバンドミュート）

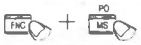
キー操作により、サブバンドの音声を小さくすることができます。この操作をサブバンドミュートと呼びます。

コントロールヘッドでは

1 UHF側がメインバンドのとき



2 FNCキーを押しながらMS/POキーを押す



3 サブバンドのディスプレーにMUTEが表示されることを確認する
また、サブバンドの音声が小さくなったことを確認する

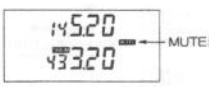
4 この操作を解除するには、FNCキーを押しながらMS/POキーを押す

フルリモコンマイクでは

1 UHF側がメインバンドのとき

2 B/SUB MUTEキーを押す

3 サブバンドのディスプレーにMUTEが表示されることを確認する
また、サブバンドの音声が小さくなったことを確認する



4 この操作を解除するには、B/SUB MUTEキーを押す

音声のミュートレベルを変えるには

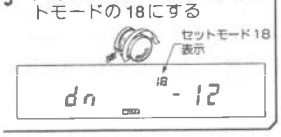
サブバンドの音声がミュートされるレベルを変えることができます。

コントロールヘッドでは、

1 VFO状態を確かめる

2 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

3 メインダイヤルを回し、セットモードの18にする



4 V.M/ENTキーを押し、レベルを決める
V.M/ENTキーを押すたびに、ディスプレーの表示は-12→-18→-6の順に変わる
(最初の値は-12です。-18を選ぶと音声はより小さくなります。-6を選ぶと-12より音声は大きくなります。)

5 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

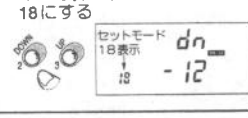
6 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

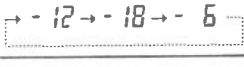
1 VFO状態を確かめる

2 SETキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの18にする



4 #/V-Mキーを押し、レベルを決める
#/V-Mキーを押すたびに、ディスプレーの表示は-12→-18→-6の順に変わる
(最初の値は-12です。-18を選ぶと音声はより小さくなります。-6を選ぶと-12より音声は大きくなります。)



5 SETキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる

本体のスピーカーからの音を止めるには

本体に内臓されているスピーカーから出る音を止めることができます。

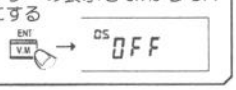
コントロールヘッドでは、

1 VFO状態を確かめる

2 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

3 メインダイヤルを回し、セットモードの05にする

4 V.M/ENTキーを押し、ディスプレーの表示をonからOFFにする



5 FNCキーを押しながらV.M/ENTキーを押す

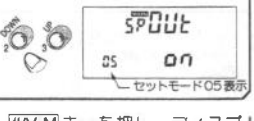
6 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 VFO状態を確かめる

2 SETキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの05にする



4 #/V-Mキーを押し、ディスプレーの表示をonからOFFにする

5 SETキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる

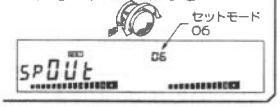
◆外部スピーカーを接続しているときは、外部スピーカーの音が止まります。

マイクのスピーカーからの音を止めるには

コントロールヘッドでは、

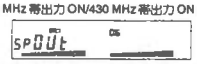
1 FNC キーを押しながら、V.M/ENT キーを押す

2 メインダイヤルを回し、セットモードの06にする



3 V.M/ENT キーを押し、設定を決める
V.M/ENT キーを押すたびに、設定は以下のように変わる

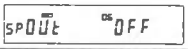
144 MHz 帯出力 ON/430 MHz 帯出力 ON



144 MHz 帯出力 OFF/430 MHz 帯出力 ON

144 MHz 帯出力 ON/430 MHz 帯出力 OFF

144 MHz 帯出力 OFF/430 MHz 帯出力 OFF



5 FNC キーを押しながら、V.M/ENT キーを押す

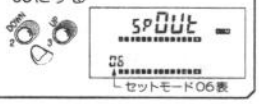
6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 VFO 状態を確かめる

2 SET キーを押す

3 2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押し、セットモードの06にする



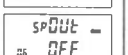
3 #/V-M キーを押し、設定を決める
#/V-M キーを押すたびに、設定は以下のように変わる

144 MHz 帯出力 ON
430 MHz 帯出力 ON

144 MHz 帯出力 OFF
430 MHz 帯出力 ON

144 MHz 帯出力 ON
430 MHz 帯出力 OFF

144 MHz 帯出力 OFF
430 MHz 帯出力 OFF



5 SET キーを押す

6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

◆PTT を押して送信状態にあるとき、マイクのスピーカーは上記手順で設定した内容にかかわらず、OFF の状態になります。

ビープ音の大きさをを変えるには

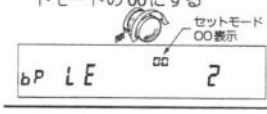
設定が完了したときや、操作を間違ったときなどに鳴るビープ音の大きさを変えることができます。

コントロールヘッドでは、

1 VFO 状態を確かめる

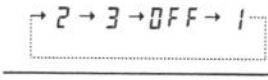
2 FNC キーを押しながら、V.M/ENT キーを押す

3 メインダイヤルを回し、セットモードの00にする



4 V.M/ENT キーを押し、レベルを決める

5 V.M/ENT キーを押すたびに、ディスプレーの表示は 2(中)→3(大)→OFF(オフ)→1(小)の順に変わる



6 FNC キーを押しながら、V.M/ENT キーを押す

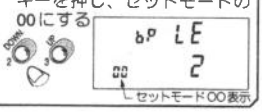
7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 VFO 状態を確かめる

2 SET キーを押す

3 2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押し、セットモードの00にする



4 #/V-M キーを押し、レベルを決める

5 #/V-M キーを押すたびに、ディスプレーの表示は 2(中)→3(大)→OFF(オフ)→1(小)の順に変わる

6 SET キーを押す

7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

設定を初めの状態に戻すには（リセット）

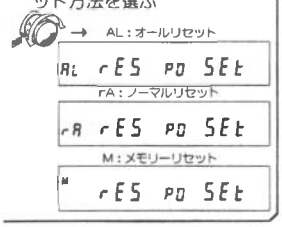
この無線機では、設定した状態を 3 種類の方法で初めの状態に戻すことができます。
この操作を行うと工場より出荷された状態に戻ります。

- ●オールリセット　：VFO やメモリーなど、設定のすべてを初めの状態に戻します。
- ●ノーマルリセット：メモリーの設定をのぞき、その他を初めの状態に戻します。
  セットモードにより変更した設定も初めの状態に戻ります。
- ●メモリーリセット：メモリーの設定だけを初めの状態に戻します。

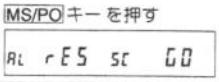
コントロールヘッドでは、

1 FNC キーを押しながら、P.PWR スイッチを押し電源を入れる
ディスプレーがリセット状態になったことを確認する

2 メインダイヤルを回し、リセット方法を選ぶ



3 MS/PO キーを押す



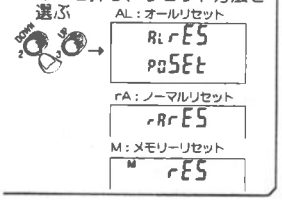
4 SCN/TSQ キーを押す
これでリセットが行われました。

5 P.PWR スイッチを押し電源を切る

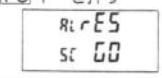
フルリモコンマイクでは、

1 0/FUNC キーを押しながら、PWR スイッチを押し電源を入れる
ディスプレーがリセット状態になったことを確認する

2 2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押し、リセット方法を選ぶ



3 C/PO キーを押す



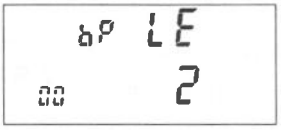
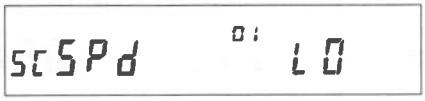
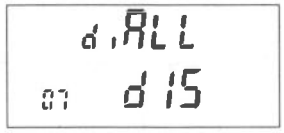
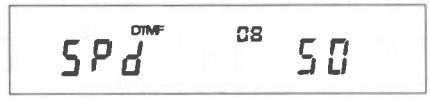
4 8/SCAN キーを押す
これでリセットが行われました。

5 PWR スイッチを押し電源を切る

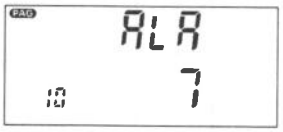
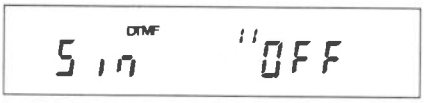
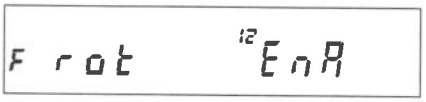
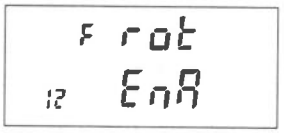
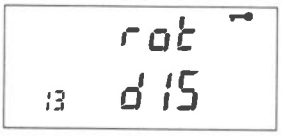
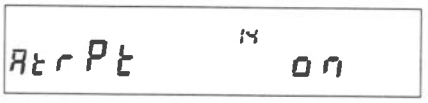
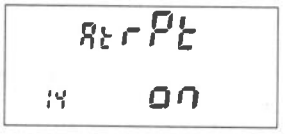
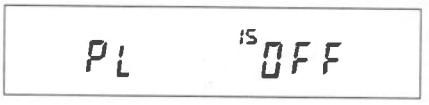
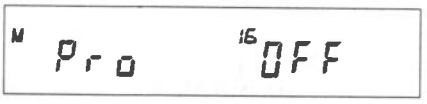
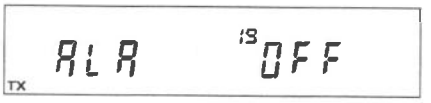
◆リセットを行った後は、それぞれの設定はリセットされています。したがって、電源を一度切ってから再度、電源を入れる必要はありません。

セットモード機能の一覧

◆セットモードで送信するか、約１分間何も操作しないと、セットモードは自動的に解除されます。

セットモード番号	参照ページ	機能	コントロールヘッド（初期表示）	フルリモコンマイク（初期表示）
00	62	ビープ音の大きさ設定		
01	54	スキャンスピードの設定		
02	54	スキャン方法の選択（144 MHz帯）		
03	54	スキャン方法の選択（430 MHz帯）		
04	54	ホールドスキャンの待ち時間選択		
05	61	本体のスピーカー音停止／出力		
06	62	マイクのスピーカー音停止／出力		
07	32	100 MHz台からのダイレクト入力許可／禁止		
08	75	DTMFコードの送出スピードの設定		
09	71	ページング信号が出るまでの時間の設定		

セットモード機能の一覧

セットモード番号	参照ページ	機能	コントロールヘッド（初期表示）	フルリモコンマイク（初期表示）
10	71	ページング着信時のアラーム音の回数設定		
11	75	DTMFをシングルトーンに設定		
12	31	1 MHzステップ動作許可／禁止		
13	37	キーロック中メインダイヤルの許可／禁止		
14	58	オートレピータの設定／解除		
15	60	PTTスイッチロック／解除		
16	48	メモリープロテクトの設定／解除		
17	39	RFスケルチの設定		
18	61	ミュートレベルの設定		
19	61	送信の自動停止設定／解除		

別売り品を使って

トーンスケルチユニット(CTN5700)を使って …… 66
トーンエンコーダーを使うには …… 67
トーンスケルチを使うには …… 67
トーン信号の周波数を変えるには …… 67
タッチトーンユニット(CTD5700)を使って …… 68
自分の個別コードを設定するには …… 69
話したい相手のページング・コードスケルチのコードを決めるには …… 69
グループコードを設定するには …… 70
ページングを使うには …… 70
ページング信号が出るまでの時間を変えるには:SET09 …… 71
アラームの回数を変えるには:SET10 …… 71
コードスケルチを使うには …… 71
DTMFを使うには …… 72
DTMFコードをメモリーするには …… 72
DTMFコードを書き換えるには …… 73
メモリーしたDTMFコードを確認するには …… 74
メモリーしたDTMFコードを消去するには …… 74
メモリーしたDTMFコードを送出するには…… 75
DTMFコードの送出スピードを変更するには:SET08 …… 75
DTMFをシングルトーンに変えるには:SET11 …… 75
別売りケーブル(CAW570~CAW575)を使って …… 76

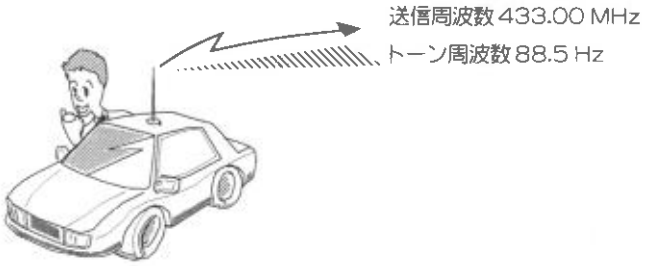
トーンスケルチユニット(CTN5700)を使って

トーンスケルチユニットをこの無線機につけることで、送信したときにトーン信号を同時に出すことができます。

●トーンエンコーダーとは、

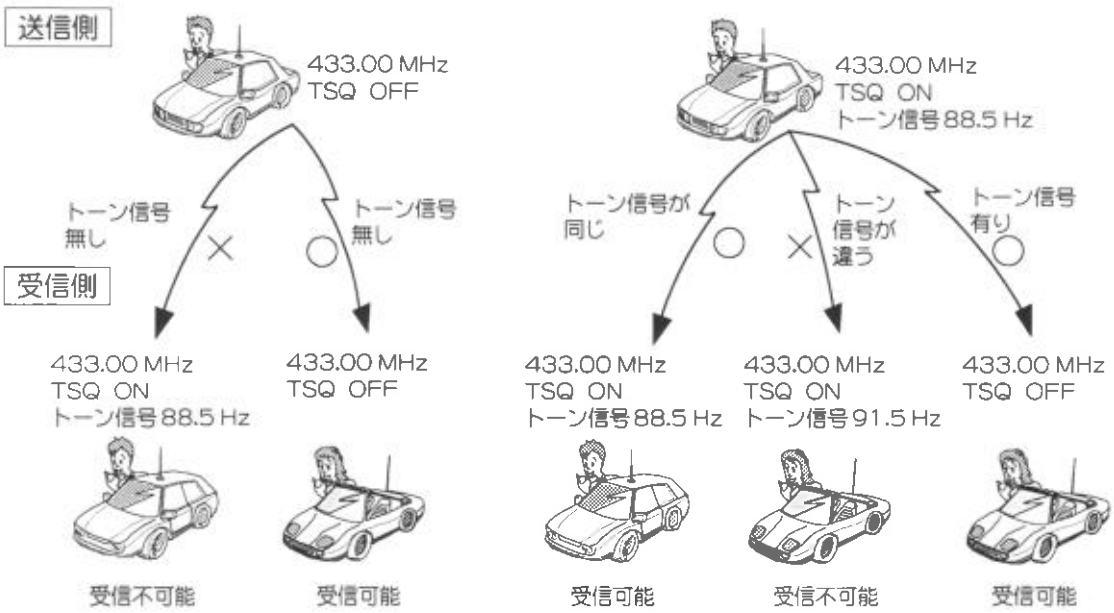
送信するときにトーン信号が出ます。

受信は普通にできます。



●トーンスケルチとは、

送信するときにトーン信号が出ます。また、受信するときに、自分と相手のトーン信号が同じでないと音声がでません。



トーンエンコーダーを使うには

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 FNCキーを押す

4 SCN/TSQキーを押す

5 ディスプレーにTが表示されるのを確認する

送信すると、トーン信号が出る

6 トーンエンコーダーをやめるには、FNCキーを押し、次にSCN/TSQキーを2回押す

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 6/T-SQLキーを押す

4 ディスプレーにTが表示されるのを確認する

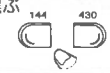
送信すると、トーン信号が出る

5 トーンエンコーダーをやめるには、6/TSQLを2回キーを押す

トーンスケルチを使うには

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ



2 VFO状態を確かめる

3 FNCキーを押す

4 SCN/TSQキーを2回押す

5 ディスプレーにTSQが表示されるのを確認する

6 受信は、トーン信号が合うと、音声が出る
送信すると、トーン信号が出る

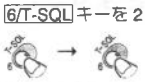
7 トーンスケルチをやめるには、FNCキーを押し、次にSCN/TSQキーを押す

フルリモコンマイクでは、

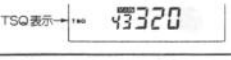
1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 6/T-SQLキーを2回押す



4 ディスプレーにTSQが表示されるのを確認する



5 受信は、トーン信号が合うと、音声が出る
送信すると、トーン信号が出る

6 トーンスケルチをやめるには、6/T-SQLキーを押す

トーン信号の周波数を変えるには

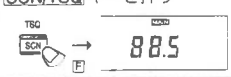
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

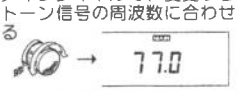
2 VFO状態を確かめる

3 FNCキーを押す

4 ディスプレーがトーン信号を変更できる状態になるまでSCN/TSQキーを押す



5 メインダイヤルで、変更するトーン信号の周波数に合わせる



6 FUNCモードが解除されているときはFNCキーを押す

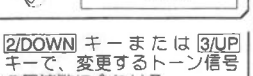
7 VFO状態に戻るまでSCN/TSQキーを押す(これで、新しいトーン信号になりました。)

フルリモコンマイクでは、

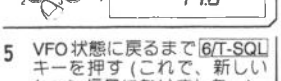
1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 ディスプレーがトーン信号を変更できる状態になるまで6/T-SQLキーを押す



4 2/DOWNキーまたは3/UPキーで、変更するトーン信号の周波数に合わせる



5 VFO状態に戻るまで6/T-SQLキーを押す(これで、新しいトーン信号になりました。)

◆トーン信号は、始め(工場出荷時)88.5 Hzです。

67.0	85.4	103.5	127.3	156.7	192.8	241.8
71.9	88.5	107.2	131.8	162.2	203.5	250.3
74.4	91.5	110.9	136.5	167.9	210.7	
77.0	94.8	114.8	141.3	173.8	218.1	
79.7	97.4	118.8	146.2	179.9	225.7	
82.5	100.0	123.0	151.4	186.2	233.6	

◆トーン信号の周波数は各バンドごとに設定できます。

◆トーン信号の周波数を呼び出し状態でメインダイヤルおよびUP/DOWNキーを操作することにより、相手局のトーン信号の周波数を探すことができます。

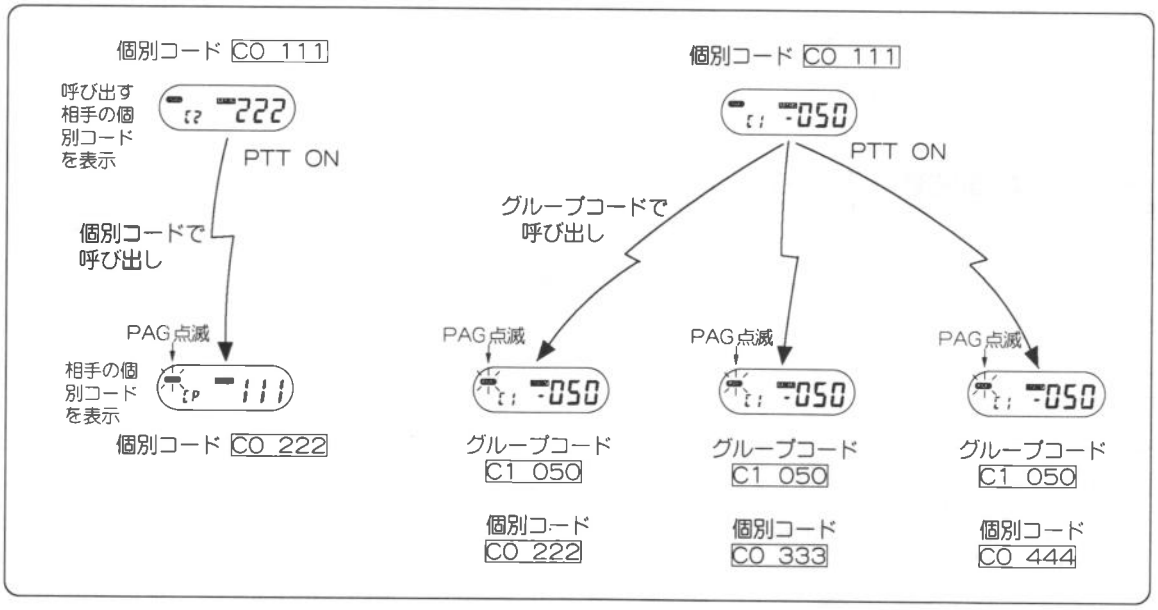
タッチトーンユニット(CTD5700)を使って

タッチトーンユニットをこの無線機につけることで、特定の人や、グループを呼び出すことができます。このときに、ページングコードやコードスケルチのコードを呼び出す人に合わせます。

●ページングとは、

話したい人の個別コードに合わせ、呼び出します。このとき、呼び出された人は、ディスプレーに呼び出した人の個別コードが表示されます。また、同時にアラームが鳴ります。

グループを呼び出すときは、グループコードを合わせ呼び出します。このとき、呼び出されたグループの人達は、ディスプレーにグループコードが表示されます。また、同時にアラームが鳴ります。



●コードスケルチとは、

話したい人の個別コードに合わせ、呼び出します。このとき、呼び出された人は、コードスケルチが開きます。また、アラームは鳴らないため、すぐに話しを始めることができます。

グループを呼び出すときは、グループコードを合わせ呼び出します。このとき、呼び出された人達は、コードスケルチが開きます。また、アラームは鳴らないため、すぐに話しを始めることができます。

自分の個別コードを設定するには

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、PG.C/DTキーを押す

4 メインダイヤルを回して、自分の個別コードメモリーにする
(個別コードは、C0に設定します。)

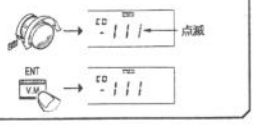
5 FNCキーを押す

6 V.M/ENTキーを押す

7 メインダイヤルを回し、1桁目を決めV.M/ENTキーを押す

8 メインダイヤルを回し、2桁目を決めV.M/ENTキーを押す

9 メインダイヤルを回し、3桁目を決めV.M/ENTキーを押す



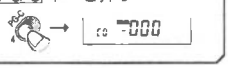
10 VFO状態になるまで、PG.C/DTキーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

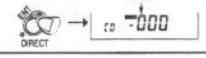
2 VFO状態を確かめる

3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、4/PG-Cキーを押す

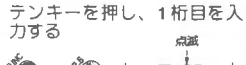


4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、自分の個別コードメモリーにする
(個別コードは、C0に設定します。)

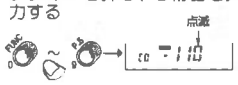
5 ＊/ENT•DIRECTキーを押す



6 テンキーを押し、1桁目を入力する



7 テンキーを押し、2桁目を入力する



8 テンキーを押し、3桁目を入力する

9 VFO状態になるまで、4/PG-Cキーを押す

話したい相手のページング・コードスケルチのコードを決めるには

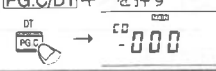
話したい相手を呼び出す前に、相手のコードを決める必要があります。

コントロールヘッドでは、

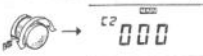
1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、PG.C/DTキーを押す

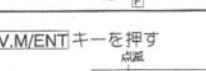


4 メインダイヤルを回して、相手の個別コードメモリーにする(相手の個別コードは、C1~C5に設定できます。)



5 FNCキーを押す

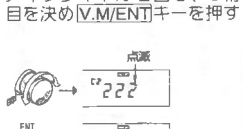
6 V.M/ENTキーを押す



7 メインダイヤルを回し、1桁目を決めV.M/ENTキーを押す

8 メインダイヤルを回し、2桁目を決めV.M/ENTキーを押す

9 メインダイヤルを回し、3桁目を決めV.M/ENTキーを押す



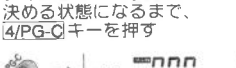
10 VFO状態になるまで、PG.C/DTキーを押す

フルリモコンマイクでは、

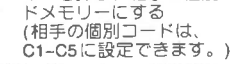
1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 ディスプレーの表示がコード決める状態になるまで、4/PG-Cキーを押す

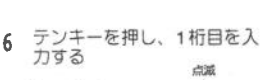


4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、相手の個別コードメモリーにする
(相手の個別コードは、C1~C5に設定できます。)

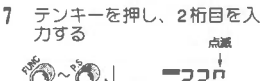


5 ＊/ENT•DIRECTキーを押す

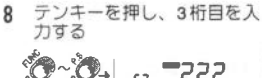
6 テンキーを押し、1桁目を入力する



7 テンキーを押し、2桁目を入力する



8 テンキーを押し、3桁目を入力する



9 VFO状態になるまで、4/PG-Cキーを押す

グループコードを設定するには

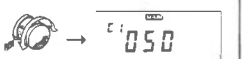
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、PG.C/DTキーを押す

4 メインダイヤルを回して、グループコードにしたいメモリーを呼び出す
(グループコードは、C1~C5に設定できます。)



5 PG.C/DTキーを押す
(コード表示の前に－が表示されグループコードになりました。)

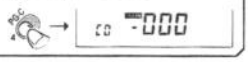
6 VFO状態になるまで、PG.C/DTキーを押す

フルリモコンマイクでは、

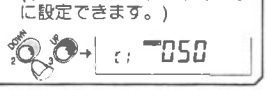
1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

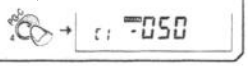
3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、4/PG-Cキーを押す



4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、グループコードにしたいメモリーを呼び出す
(グループコードは、C1~C5に設定できます。)



5 4/PG-Cキーを押す
(コード表示の前に－が表示されグループコードになりました。)



6 VFO状態になるまで、4/PG-Cキーを押す

◆グループコードを解除するには、グループが設定されているコードで同じ手順を行います。このとき、コード表示の前の"－"が消えたことを確認します。

ページングを使うには

コントロールヘッドでは、
(呼ばれるとき)

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 スケルチの状態が正しいことを確かめる(スピーカーよりザー音が出ていない状態)

4 PG.C/DTキーを押す

5 相手より呼ばれると、PAGが点滅しアラームが鳴る
相手の個別番号またはグループ番号がディスプレーに表示されるのを確認する

6 PTTを押し応答する

7 PG.C/DTキーを2回押す

8 PTTを押す

9 これより後は、普通の交信と同じ

◆手順7でページングを解除しないと、送信するたびページングの信号を出しスムーズな交信ができません。

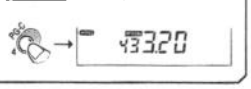
フルリモコンマイクでは、
(呼ばれるとき)

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 スケルチの状態が正しいことを確かめる(スピーカーよりザー音が出ていない状態)

4 4/PG-Cキーを押す



5 相手より呼ばれると、PAGが点滅しアラームが鳴る
相手の個別番号またはグループ番号がディスプレーに表示されるのを確認する

6 PTTを押し応答する

7 4/PG-Cキーを2回押す

8 PTTを押す

9 これより後は、普通の交信と同じ

◆ページングで呼び出すときには、手順4でページングを設定した後にPTTを押すことにより呼び出しができます。
相手からの応答があった後は手順7に従ってページングを解除してください。

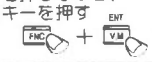
ページング信号が出るまでの時間を変えるには

通常、ページング信号はPTTが押されてから約250 m秒後に出ます。この時間を約450 m秒または約850 m秒に変更できます。

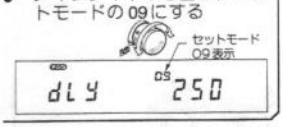
コントロールヘッドでは、

1 VFOを確かめる

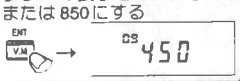
2 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す



3 メインダイヤルを回し、セットモードの09にする



4 V.M/ENTキーを押し、ディスプレーの表示を250から450または850にする



5 変更する時間が決まったら、FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

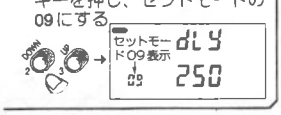
6 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

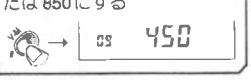
1 VFO状態を確かめる

2 SETキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの09にする



4 #/V-Mキーを押し、ディスプレーの表示を250から450または850にする



5 変更する時間が決まったら、SETキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる

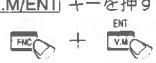
アラームの回数を変えるには

ページングで呼ばれたとき、通常は7回アラームが鳴ります。このアラームの鳴る回数を1回にすることができます。

コントロールヘッドでは、

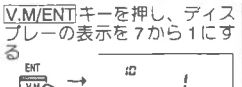
1 VFO状態を確かめる

2 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

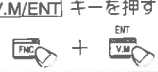


3 メインダイヤルを回し、セットモードの10にする

4 V.M/ENTキーを押し、ディスプレーの表示を7から1にする



5 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す



6 VFO状態に戻ったことを確かめる

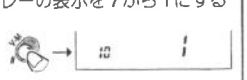
フルリモコンマイクでは、

1 VFO状態を確かめる

2 SETキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの10にする

4 #/V-Mキーを押し、ディスプレーの表示を7から1にする



5 SETキーを押す

6 VFO状態に戻ったことを確かめる

コードスケルチを使うには

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 スケルチの状態が正しいことを確かめる
(スピーカーよりザー音が出ていない状態)

4 PG.C/DTキーを2回押す

5 相手より呼ばれ、コードが合うとコードスケルチが開く

6 相手を呼び出すには、PTTを押す

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 スケルチの状態が正しいことを確かめる
(スピーカーよりザー音が出ていない状態)

4 4/PG-Cキーを2回押す

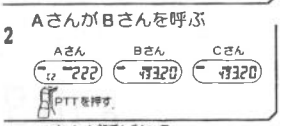
5 相手より呼ばれ、コードが合うとコードスケルチが開く

6 相手を呼び出すには、PTTを押す

ページング運用を使った例(1)
特定の人を呼び出すとき

1

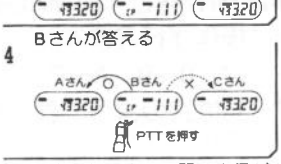
2 Aさん Bさん Cさん



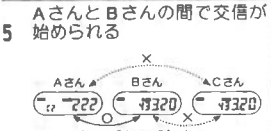
Aさんが Bさんを呼ぶ

3 Bさんが呼ばれる

4 Bさんが答える



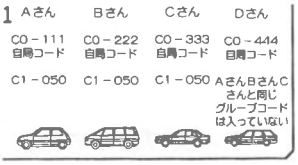
5 AさんとBさんの間で交信が始められる



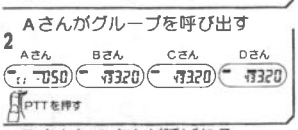
ページングを解除する

ページング運用を使った例(2)
グループを呼び出すとき

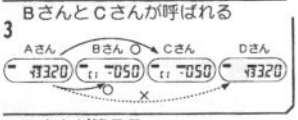
1



2 Aさんがグループを呼び出す



3 BさんとCさんが呼ばれる



4 Bさんが答える

5 AさんとBさんの間で交信が始められる

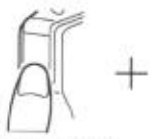
ページングを解除する
Cさんがページングを解除しないと、これから後はAさんとBさんの交信は聞けません。

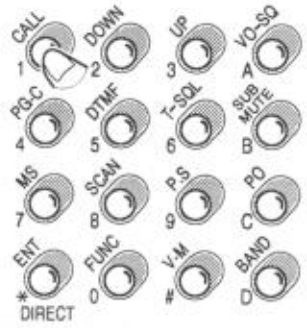
DTMFを使うには

本機では、DTMF信号の送出方法が2通りあります。
第1の方法は、PTTを押しながらフルリモコンマイクのキーを押す方法です。
第2の方法は、DTMFコードをメモリーし、そのコードを送出する方法です。

●PTTを押しながら、DTMF信号を送出するには

1 PTTを押しながら、キーを押す
(このとき、有効なキーは0～9、A～D、＊、＃です。)





◆DTMF信号は、キーを押している間だけ送出されます。

DTMFコードをメモリーするには

●最大15桁のDTMF信号をDTMF専用メモリーにメモリーできます。
15桁のDTMF信号は5桁づつ3つのブロックにわけられています。

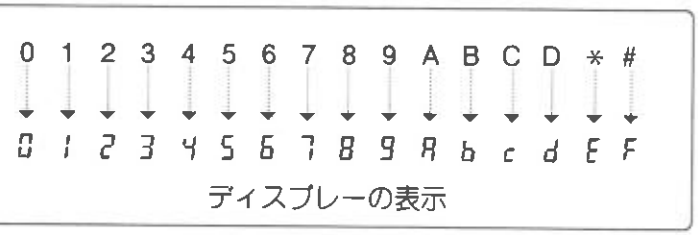
ディスプレーでは以下のようにして、どのブロックが表示されているか確認できます。

ブロック1を呼び出したとき

ブロック2を呼び出したとき

ブロック3を呼び出したとき

● 専用メモリーは、144 MHz帯と430 MHz帯の共通で6個あります。DTMF信号をメモリーすることで、より簡単に操作が行えます。
メモリーできるコードは、0～9、A～D、＊、＃です。
ディスプレーでは、コードは次のように表示されます。



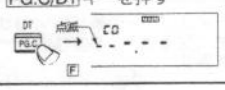
DTMF コードをメモリーするには

コントロールヘッドでは、

1 VFO 状態を確かめる

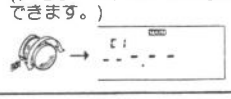
2 FNC キーを押す

3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、PG.C/DT キーを押す



4 FNC キーを押し、FUNC モードを解除する

5 メインダイヤルを回し、メモリーする番号にする
(メモリーは、C0~C5 に設定できます。)

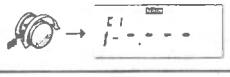


6 FNC キーを押す

7 V.M/ENT キーを押す

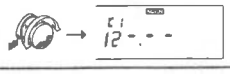
8 ディスプレーが 1 桁目の入力待ちになるのを確認する

9 メインダイヤルを回し、メモリーするコードにする



10 V.M/ENT キーを押す

11 メインダイヤルを回し、2 桁目のコードをメモリーする



12 同様の手順を 15 桁目まで繰り返す

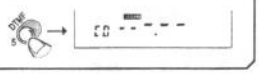
13 FNC キーを押す

14 VFO 状態に戻るまで、PG.C/DT キーを押す

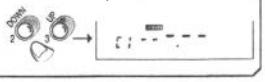
フルリモコンマイクでは、

1 VFO 状態を確かめる

2 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、5/DTMF キーを押す



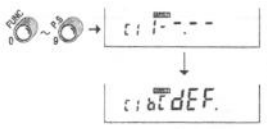
3 2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押し、メモリーする番号にする
(メモリーは、C0~C5 に設定できます。)



4 * /ENT•DIRECT キーを押す

5 ディスプレーが 1 桁目の入力待ちになるのを確認する

6 テンキーを使い、1 桁から 15 桁までコードを入力する



7 VFO に戻るまで、5/DTMF キーを押す

◆入力するコードが 15 桁より短いときは、PTT を押すと、それまでのコードが入力されます。

DTMF コードを書き換えるには

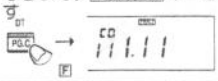
DTMF 専用メモリーに入っている DTMF 信号を変更することができます。

コントロールヘッドでは、

1 VFO 状態を確かめる

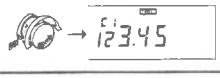
2 FNC キーを押す

3 ディスプレーがコード表示になるまで、PG.C/DT キーを押す



4 FNC キーを押し、FUNC モードを解除する

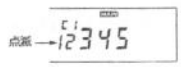
5 メインダイヤルを回し、変更するメモリー番号にする



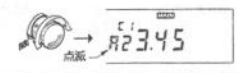
6 FNC キーを押す

7 V.M/ENT キーを押す

8 ディスプレーが 1 桁目の入力待ちになるのを確認する



9 メインダイヤルを回し、メモリーするコードにする



10 V.M/ENT キーを押す

11 変更しないコードは、V.M/ENT キーを押す

12 同様の手順を 15 桁目まで繰り返す

13 FNC キーを押す

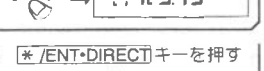
14 VFO に戻るまで、PG.C/DT キーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 VFO 状態を確かめる

2 ディスプレーがコード表示になるまで、5/DTMF キーを押す

3 2/DOWN キーまたは 3/UP キーを押し、変更するメモリー番号にする



4 * /ENT•DIRECT キーを押す

5 ディスプレーが 1 桁目の入力待ちになるのを確認する

6 テンキーを使い、1 桁から 15 桁までコードを入力しなおす

7 VFO に戻るまで、5/DTMF キーを押す

◆フルリモコンマイクでは、コードを変更するときは、すべて入力しなおしになります。
変更しないコードは、同じコードを入力してください。

メモリーしたDTMFコードを確認するには

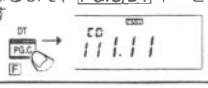
コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 FNCキーを押す

4 ディスプレーがコード表示になるまで、PG.C/DTキーを押す

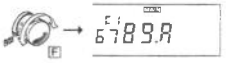


5 FNCキーを押し、FUNCモードを解除する

6 メインダイヤルを回し、確認したいメモリー番号にする

7 FNCキーを押す

8 メインダイヤルを回し、メモリーの内容を確認する



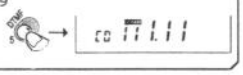
9 FUNCモードが解除されているときはFNCキーを押す

10 VFOに戻るまでPG-C/DTキーを押す

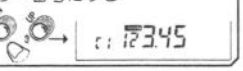
フルリモコンマイクでは、

1 VFO状態を確かめる

2 ディスプレーがコード表示になるまで、5/DTMFキーを押す



3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、確認したいメモリー番号にする



4 0/FUNCキーを押す

5 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、メモリーの内容を確認する

6 0/FUNCキーを押して、FUNCモードを解除する

7 ディスプレーの表示がVFO状態に戻るまで、5/DTMFキーを押す

8 VFOに戻ったことを確認する

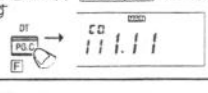
メモリーしたDTMFコードを消去するには

コントロールヘッドでは、

1 VFO状態を確かめる

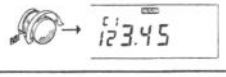
2 FNCキーを押す

3 ディスプレーがコード表示になるまで、PG.C/DTキーを押す



4 FNCキーを押し、FUNCモードを解除する

5 メインダイヤルを回し、消去したいメモリー番号にする



6 FNCキーを押す

7 V.M/ENTキーを押す

8 ディスプレーが1桁目の入力待ちになるのを確認する

9 マイクのPTTを押す

10 FNCキーを押す

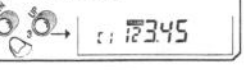
11 VFOに戻るまでPG-C/DTキーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 VFO状態を確かめる

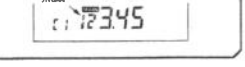
2 ディスプレーがコード表示になるまで、5/DTMFキーを押す

3 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、消去したいメモリー番号にする



4 ✳/ENT•DIRECTキーを押す

5 ディスプレーが1桁目の入力待ちになるのを確認する



6 マイクのPTTを押す

7 ディスプレーの表示がVFO状態に戻るまで、5/DTMFキーを押す

8 VFOに戻ったことを確認する

メモリーしたDTMFコードを送出するには

コントロールヘッドとリモコンマイクでは、

1 VFO状態を確かめる

2 FNCキーを押す

3 ディスプレーがコード表示になるまで、PG.C/DTキーを押す

4 FNCキーを押し、FUNCモードを解除する

5 メインダイヤルを回し、送出したいメモリー番号にする

6 FNCキーを押す

7 VFOに戻るまで、PG.C/DTキーを押す

8 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

9 FNCキーを押す

10 PG.C/DTキーを押す

11 ディスプレーにDTMFが表示されていることを確認する

表示

12 PTTを押しながら、SQL-OFFキーを押す

13 DTMF表示を消すには、FNCキーを押した後にPG.C/DTキーを押す

◆この動作はコントロールヘッド(CRC5700)とリモコンマイク(CMP842)とが接続されているときの動作です。手順11をフルリモコンマイク(CMP843)で行なってもDTMFメモリーを送出することはできません。

フルリモコンマイクでは

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFOを確かめる

3 5/DTMFキーを押す

4 ディスプレーにDTが表示されること確認する

DT表示

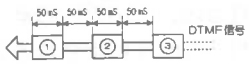
5 PTTを押しながら、送出したいメモリー番号を0~5のキーで押す
(この操作で、メモリーされているDTMFコードが送出されます。)

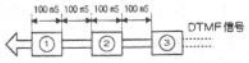
6 DT表示を消すには、5/DTMFキーを押す

◆DT表示が表示されていると、16キーに対応したDTMFトーンを出力することができません。

DTMFコードの送出スピードを変更するには

通常、DTMF信号は50m秒のスピードで送出されます。このスピードを100m秒に変えることができます。





コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、セットモードの08にする

セットモード08表示

5 V.M/ENTキーを押し、ディスプレーの表示を50から100にする

6 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

7 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 SETキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの08にする

セットモード08表示

5 #/V.Mキーを押し、ディスプレーの表示を50から100にする

6 SETキーを押す

7 VFO状態に戻ったことを確かめる

DTMFをシングルトーンに変えるには

通常、DTMF信号は2つのトーン信号を併せて、1つのDTMF信号として送出します。この信号を1つの信号(シングルトーン)を送出するように変えることができます。

コントロールヘッドでは、

1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

4 メインダイヤルを回し、セットモードの11にする

セットモード11表示

5 V.M/ENTキーを押し、ディスプレーの表示をOFFからonにする

6 FNCキーを押しながら、V.M/ENTキーを押す

7 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

2 VFO状態を確かめる

3 SETキーを押す

4 2/DOWNキーまたは3/UPキーを押し、セットモードの11にする

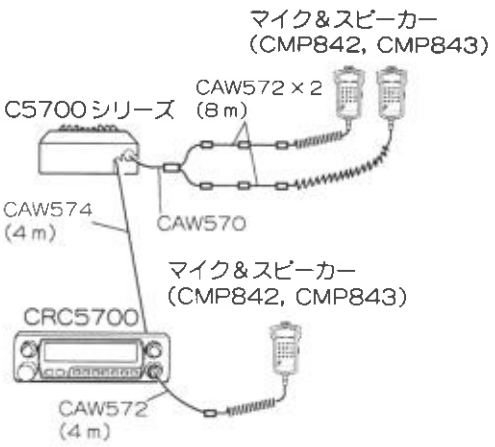
セットモード11表示

5 #/V-Mキーを押し、ディスプレーの表示をOFFからonにする

6 SETキーを押す

7 VFO状態に戻ったことを確かめる

別売りケーブル(CAW570~CAW575)を使って

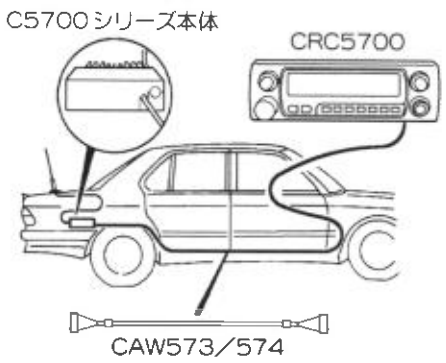


別売りのデュアルマイクロホンケーブル(CAW570)、延長ケーブル(CAW571/CAW572)リモートケーブル(CAW573/CAW574)を使うと、最大3本までマイクを接続できます。

延長ケーブルは8m以内で接続ができます。使用例として図のような組み合わせで使うことができます。

注

◆8m以上延長すると正常に動作をしないことがあります。
◆デュアルマイクロホンケーブル(CAW570)およびマイクロホンのカールコードの長さは含みません。



延長ケーブルやリモートケーブルを使って、本体をトランクの中等に入れることもできます。

本体をトランクの中等に入れる場合、別売りの延長電源ケーブル(CAW575)長さ5mを利用されると便利です。

ご参考に

故障とお考えになる前に …… 78
オプション（別売り品）の紹介 …… 79
アフターサービスについて …… 79
定　格 …… 80
運用にあたって …… 81
申請書の書きかた …… 82
送信系統図 …… 83
さくいん …… 84

故障とお考えになるまえに

サービスを依頼される前に、ご面倒ですが次のことをお調べください。
下記の項目をチェックしてもなおらない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

	現　象	主な原因および処置
電源関係	電源が入らない。	＊ヒューズの確認。 ＊DCコードの抜け。 ＊DC IN 13.8V端子に過電圧（直流18V以上）が加わっている。 DC IN 13.8Vのプラグを抜き、DC電源の電圧を確認してください。
表示関係	片方のバンドの周波数表示が消えたまま。	＊表示部を消す動作になっている。
	表示部が暗い。	＊ディマー動作になっている。
受信関係	強い信号しか受信しない。	＊アンテナの整合が悪い。 ＊アンテナが外れている、緩んでいる。 ＊SQLツマミが時計方向に回し切ってある。 ＊同軸ケーブルが外れている、緩んでいる。 ＊RFスケルチ動作になっている。
	スケルチが閉じない。ザーという音が出ている。	＊リモコンマイクによってスケルチオフになっている。 ＊リモートモードでフルリモコンマイクによってスケルチが開いている。
	信号を受信しない。	＊アンテナが外れている、緩んでいる。 ＊同軸ケーブルが外れている、緩んでいる。
	受信音がしない。	＊トーンスケルチ動作中は、同一トーン周波数でないと、受信音が聞こえません。 ＊外部スピーカーの接続確認。 ＊音量ボリュームの位置を確認。 ＊ページングモードまたは、コードスケルチモードになっている。 ＊セットモードの05、06を確認
	受信音が小さい。	＊サブバンドミュート動作になっている。
	リモコンマイクから音量調節ができない。	＊本体ボリュームがリモートポジションになっていない。 （反時計方向に回し切っていない）
送信関係	送信出力が少ない。	＊アンテナとの整合が悪い。 ＊Lowパワーモードになっている。 ＊アンテナが外れている、緩んでいる。 ＊アンテナが接続されていない、緩んでいる。
レピータ関係	自動的にT－表示になる。	＊JARL設定のレピータ周波数（439 MHz台）になると、自動的にT－を表示します。
	自動的にT－，T＋表示が消える。	＊レピータ周波数以外になると自動的にT－，T＋を解除します。
	レピータ局をアクセスしない。	＊トーン周波数が異なっている。 ＊レピータ局との距離が遠い。 ＊シフト周波数が異なっている。 ＊シフト方向が＋になっている。
	表示部にOFFが表示される	＊シフトされた周波数がOFFバンドになっている。
スキャン関係	スキャンしない。	＊SQLツマミが反時計方向に回し切ってある。 SQLツマミを調節をしてください。
	メモリースキャンしない。	＊メモリー周波数がメモリーされていないと、メモリースキャンしません。
	プログラムスキャンしない。	＊スタート周波数とエンド周波数がメモリーされていない。

	現　象	主な原因および処置
メモリー関係	すべてのメモリーが消去できない。	＊リセット時ノーマルリセットでリセットしている。
	特定のメモリーが消去、書き換えできない。 メモリーの書き込みができない。	＊セットモード16でメモリープロテクトが設定されている。
ページング関係	ページング動作しない。	＊CTD5700（別売り品）が実装されていない。 ＊ページング動作は、コードのメモリーが必要です。 ＊相手局とコードが一致していない。 ＊相手局または自局の電波が届かない。
	表示部にEが表示される。	＊相手局コードの読み取りエラー表示です。
	コードが設定されない。	＊CTD5700（別売り品）が実装されていない。
DTMF関係	DTMF信号が送出されない。	＊あらかじめコードの設定が必要です。 ＊CTD5700（別売り品）が実装されていない。
その他	ビープ音がしない。	＊セットモード00でビープオフが設定されている。

オプション（別売り品）の紹介

●本機をより楽しくご利用して頂くよう豊富なアクセサリーが用意されています。

CTD5700：DTMF（タッチトーン）ユニット
CTN5700：CTCSS（トーンスケルチ）ユニット
CMP843　：フルリモコンマイク&スピーカー
CMP842　：リモコンマイク&スピーカー
CRC5700：コントロールヘッド
CAX5700：セパレートカバー
CSK12　　：外部スピーカー
CMU181　：メモリーユニット(各20チャンネル)
CMU182　：メモリーユニット(各100チャンネル)
CAW570　：デュアルマイクケーブル
CAW571　：マイク延長ケーブル（長さ2ｍ）
CAW572　：マイク延長ケーブル（長さ4ｍ）
CAW573　：リモートケーブル（長さ2ｍ）
CAW574　：リモートケーブル（長さ4ｍ）
CAW578　：リモートケーブル（長さ8ｍ）
CAW575　：延長電源ケーブル（長さ5ｍ）
CMB5700：モービルブラケット
CMB5710：モービルブラケット

※アクセサリーの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

アフターサービスについて

保証について

●この製品の保証期間は1年間です。
● この製品には、保証書がついています。
●保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
●保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

●保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理をいたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

●「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または弊社営業所、弊社サービスセンターにご相談ください。

定　格

1. 一般仕様

送受信周波数 ····VHF　144.000～145.995 MHz
　　UHF　430.000～439.995 MHz
電波型式 ····· F2、F3
定格電圧 ·····DC 13.8 V ± 15 %
消費電流 ·C5700　送信時　(Hi)　4.1 A
　　送信時　(Mid)　3.0 A
　　送信時　(Low)　2.0 A
　　待受受信時　1.0 A
　　C5710　送信時　(Hi)　4.0 A
　　送信時　(Mid)　2.9 A
　　送信時　(Low)　1.9 A
　　待受受信時　0.9 A
　　C5720　送信時　(Hi)　4.2 A
　　送信時　(Mid)　3.1 A
　　送信時　(Low)　2.1 A
　　待受受信時　1.1 A
　　C5700D　送信時　(Hi)　11.1 A
　　送信時　(Mid)　6.0 A
　　送信時　(Low)　4.6 A
　　待受受信時　1.0 A
　　C5710D　送信時　(Hi)　11.0 A
　　送信時　(Mid)　6.0 A
　　送信時　(Low)　4.5 A
　　待受受信時　0.9 A
　　C5720D　送信時　(Hi)　11.2 A
　　送信時　(Mid)　6.1 A
　　送信時　(Low)　4.7 A
　　待受受信時　1.1 A

マイクロホン入力インピーダンス ····· 600 Ω
低周波出力インピーダンス ····· 4 Ω
空中線インピーダンス ····· 50 Ω
使用温度範囲 ····· − 20 ℃～+ 60 ℃
周波数安定度 ····· ± 3ppm
アンテナコネクター ····· M型（ケーブル付）
接地方式 ····· マイナス接地

本体寸法 ····· C5700/D
（幅×高さ×奥行き）　140 × 40 × 150 mm
　　C5710/D
　　140 × 40 × 135 mm
　　C5720/D
　　140 × 40 × 150 mm
重　量 ····· C5700/D　1.1 kg
　　C5710/D　1.0 kg
　　C5720/D　1.1 kg

2. 受　信

受信方式 ····· ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数
　144 MHz帯　1st　IF　44.95 MHz (Upper)
　　2nd　IF　455 kHz　(Lower)
　430 MHz帯　1st　IF　23.05 MHz (Lower)
　　2nd　IF　455 kHz　(Lower)
受信感度
(12 dB SINAD) ····· - 16 dBμ　(0.158 μV)＊
選択度 ····· 12 kHz以上 (- 6 dB)
　　24 kHz以下 (- 60 dB)
スケルチ開放感度 ····· - 19 dBμ　(0.112μ V)＊
低周波出力 ····· 3.0 W (10 %歪時)
0.5 μV入力時S／N比 ····· 30 dB以上

3. 送　信

送信出力 ·····C5700/C5710/C5720
　　Hi　10 W
　　Mid　5W
　　Low　1 W
　　C5700D/C5710D/C5720D
　144 MHz帯　Hi　50 W
　　Mid　10 W
　　Low　3 W
　430 MHz帯　Hi　40 W
　　Mid　10 W
　　Low　3 W
変調方式 ····· リアクタンス変調
最大周波数偏移 ····· ± 5 kHz
スプリアス発射強度 ····· - 60 dB
変調歪 ····· 3 %以下 (70 %変調時)
（＊はJAIA測定法による値）

●本機の規格および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

運用にあたって

アマチュアバンドの使用区分は、混信の除去等を目的に制定されています。都会やその周辺の地域では144 MHz バンドや430 MHzバンドはFM電波を使用する局が多く、時間によっては「FM」(電話)の区分内では周波数が不足して出る時間のないくらい混雑しています。交信はできるだけ短く、お互いにゆずり合いの精神で運用してください。

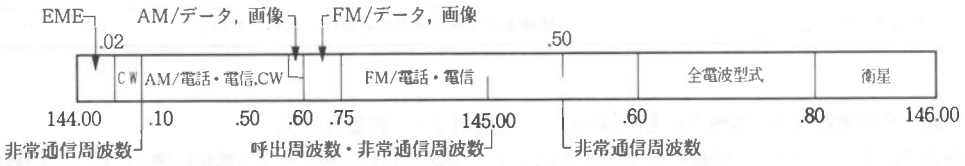
1.使用区別図

(1) 1907.5 kHzから10.25 GHzまでのアマチュアバンドにおけるアマチュア業務に使用する電波の型式および周波数は、使用区別図のとおりです。なお、144 MHz帯、430 MHz帯、1200 MHz帯および2400 MHz帯においては、JARLのアマチュア局によりJARLのアマチュア業務の中継用無線局を遠隔操作する場合には、A1、A2、F2およびF3電波により全周波数を使用することができます。

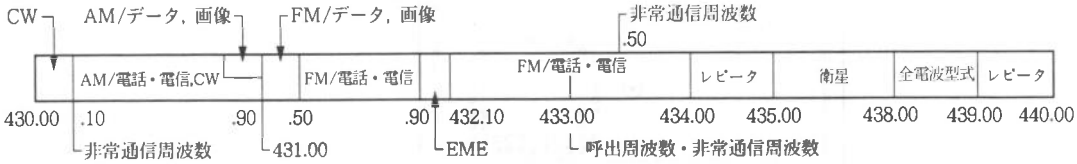
(2) 使用区別図中の「呼出周波数・非常通信周波数」および「呼出周波数」は、FM/電話・電信の電波による連絡設定の通信を行う場合に使用することができます。

(3) 使用区別図中の「非常通信周波数」は、非常通信が実施されていない場合は、その他の通信に使用することができます。

144 MHz帯　周波数：MHz



430 MHz帯　周波数：MHz



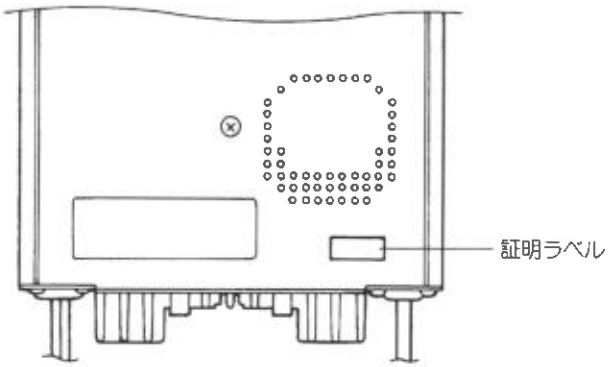
申請書の書きかた

本機は技術基準適合機ですので「アマチュア無線局の無線設備の技適証明書発行・保証認定願」と「工事設計書」に技術基準適合照明番号を記載することで送信機系統図と工事設計書の発射可能な電波の型式、周波数の範囲以外の項目の記入を省略できます。

参考：

			C5700/C5710/C5720	C5700D/C5710D/C5720D
①	技術基準適合証明番号			
②	発射可能な電波の型式 周波数の範囲		F2, F3　144.000 MHz～145.995 MHz F2, F3　430.000 MHz～439.995 MHz	F2, F3　144.000 MHz～145.995 MHz F2, F3　430.000 MHz～439.995 MHz
	変調の方式		リアクタンス変調	リアクタンス変調
	定格出力		144 MHz帯　10 W 430 MHz帯　10 W	144 MHz帯　50 W 430 MHz帯　40 W
	終段管	名称・個数	144 MHz帯　S-AV5 ×1 430 MHz帯　M57704MR ×1	144 MHz帯　S-AV17 ×1 430 MHz帯　M57788MR ×1
		電圧	144 MHz帯　13.4 V 430 MHz帯　13.4 V	144 MHz帯　12.5 V 430 MHz帯　13.0 V
③	送信空中線の型式			
	その他工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している	

① 技術基準適合証明書番号は、本機の底面に貼られている証明ラベルの番号です。
技術基準適合証明でアマチュア無線局を開局する場合は、「技適証明発行願」と「工事設計書」には、この番号を記入してください。

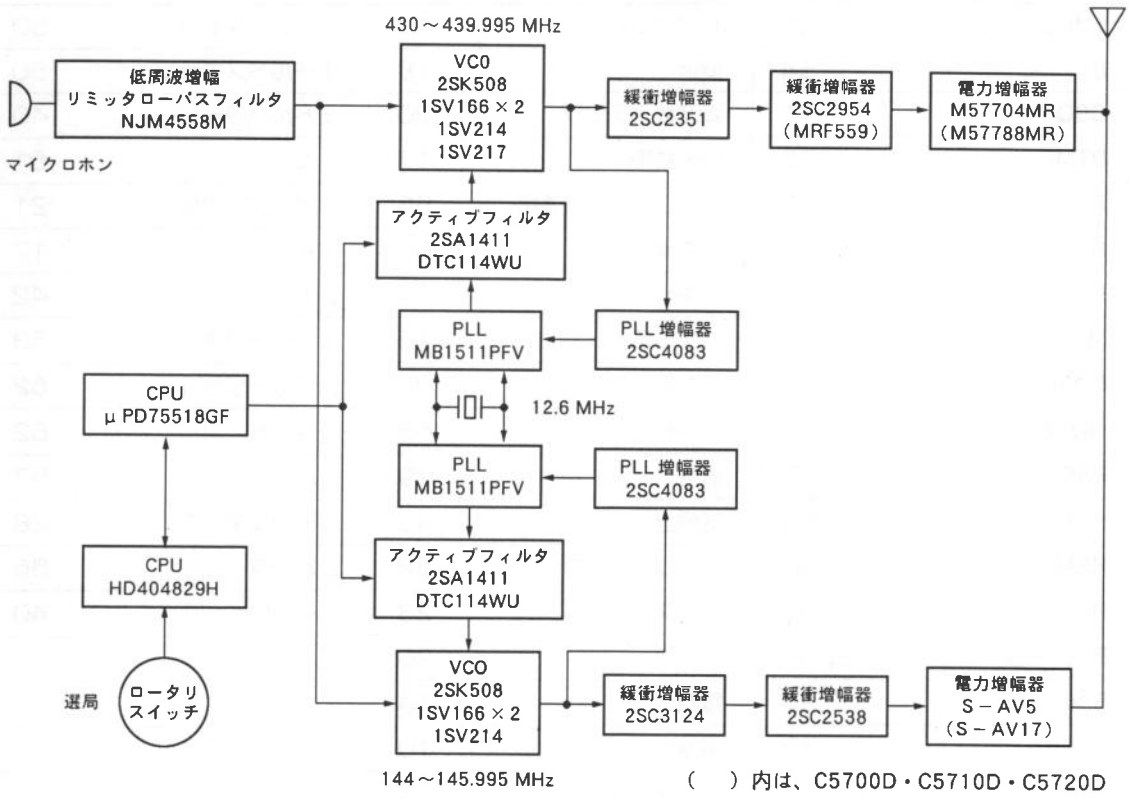


② 保証認定でアマチュア無線局を申請する場合は、「工事設計書」にこれらの項目を記入してください。
保証認定が必要な場合は、次の通りです。

1. JARL登録送信機およびその改造送信機
2. 技適証明送信機を改造した改造送信機
3. 技適証明送信機に付属装置（TNC装置、FAX装置、RTTY装置など）、トランスバータまたはブースタ等を付加した送信機
4. 自作した送信機

③ 使用する送信空中線（アンテナ）の型式を記入してください。単一型、八木型が一般的です。

送信機系統図


430～439.995 MHz
低周波増幅
リミッタローパスフィルタ
NJM4558M
マイクロホン
VCO
2SK508
1SV166×2
1SV214
1SV217
緩衝増幅器
2SC2351
緩衝増幅器
2SC2954
(MRF559)
電力増幅器
M57704MR
(M57788MR)
アクティブフィルタ
2SA1411
DTC114WU
PLL
MB1511PFV
PLL増幅器
2SC4083
12.6 MHz
CPU
μPD75518GF
CPU
HD404829H
選局
ロータリ
スイッチ
VCO
2SK508
1SV166×2
1SV214
緩衝増幅器
2SC3124
緩衝増幅器
2SC2538
電力増幅器
S－AV5
(S－AV17)
144～145.995 MHz
( ) 内は、C5700D・C5710D・C5720D

さくいん

1MHzスキャン	52	サブバンド	17	ポーズスキャン	50
B	54	受信	18	ホールドスキャン	50
CSQ	71	周波数ステップ	30	ミドルパワー	40
DTMF	72	周波数帯	17	ミュート	61
F	22, 27	シンプレックス運用	56	メインダイヤル	21
H	54	スキャン	50	メインバンド	17
L	40	スキャンスピード	54	メモリー	42
M	40	スケルチ	16	メモリースキャン	53
MAIN	17	スケルチオフ	38	メモリーリセット	62
MUTE	61	セットモード	63	リセット	62
PAG	70	送信	19	リバース	57
PTTロック	60	送信出力	40	リモコンマイク	28
REM	20	ダイレクト入力	32	レピータ	56
RFスケルチ	39	ディスプレー	23	ローパワー	40
RFメーター	23, 40	ディマー	20		
Sメーター	23	電源	14		
T	67	電源ケーブル	10		
TSQ	67	トーンエンコーダー	67		
VFO	18	トーンスケルチ	67		
VFOリンク	60	ノーマルリセット	62		
アンテナ	11, 12	ハイパワー	40		
オートレピータ	57	バンド	17		
オールスキャン	52	バンドオフ	60		
オールリセット	62	ビープ音	62		
オフセット周波数	57	ビジースキャン	50		
音量	15	プライオリティー	53		
キーロック	36	プライオリティースキャン	53		
グループコード	68, 70	ブラケット	8		
コードスケルチ	71	フルリモコンマイク	23, 25		
コール周波数	33	ブロック	53		
個別コード	68, 69	ブロックメモリースキャン	53		
固定局	12	ページング	70		
コントロールヘッド	9	別売りケーブル	76		

メモ

日本マランツ株式会社

本　　社　〒 228　神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号

営業本部　〒 150　東京都渋谷区恵比寿南 1丁目11番9号

ご注意：お問い合わせは最寄りの日本マランツ株式会社，各営業所
サービスセンターで承っております。
付属品の全国営業所一覧をご覧ください。

Printed in Japan

021B85111